帝國の宦官
日野
Akira
Hino
晶
BBC DELUXE
ビーボーイコミックス デラックス

もくじ
contents

帝國の宦官——3
宦官追想録 ―西域の姫君―——189
あとがき——208
電子限定描き下ろし——211

帝國の宦官

はぁ…
ギッ
ギッ
「ついてない男」
はっ
ギコッ
はっ
昔っから
そう呼ばれて
きたが――…
はっ
今回のは
ド級だ
ギシ
ギッ
はぁ…
はっ
ギッ
煙草……
吸いてぇな…
あ…
ぐいっ
びくっ
あ
うぅっ
……何か別の事
考えてない？
いつもの
店にある
ちょっと
高いやつ……

好きな娘の事とか？
ぐぐ…っ
びくっ
ぶるっ
……っ
ぶるっ
がはっ
はぁっ
はっ
そんなんじゃねぇよ……っ
はっ
はぁっ
——どうしてこうなった？
そっか…
ン
そうだね
どこから選択を間違った…？
そんな事考えたってもう雀(ジャン)には…
つつ…
ないんだもんね？
可哀想に……
カッ

お前が俺を去勢させたんだろ！
俺の体を……
〜〜〜〜っ
ん
んぅっ
はっ
やめ
じたっ
じた
ちょ
おま…
！
っ
くちゅ…
ふふ
そうだね確かに私が君を去勢させた…雀の大切なおち●ち●…
ずっ
ずるぅ
あ
あ！あ！
一生かけて償ってあげようね…？
ぬ
は……
ぬぬ…
ぶるっ
ぬ…
ぶるっ
——…帰りたい

ちょっと前まで…
俺はただ
ツイてないだけの
平凡な兵士
だったんだ
ぱん
ぁあっ
元の……
元の生活に
帰りたい
――……
あ…
ガヤ
ガヤ
ガヤ
――ひと月前
帝国東端の町――……
すまん
金借して
くれ
まーた
スられたのか!!
いや用心して
たんだけど
たまたま…
たまたま
全財産
持ってた
日で…
ヨボ
ヨボ…
か…
金出しぇ…
うわ～
斬り殺すのも
哀れなくらいの
集団で……
さすがだな
歩く不運男!

遠征から帰ったら返すからさ
いーけど死ぬなよ？
死なねーよ
ずし
キリッ
俺は確かに不運男だが
今まで一度として死んだ事はない！
……
……
だっ
ははは
そりゃそーだ!!
ゆはは
ゴッ
帝国人は陽気で細かい事を気にしない
俺の不運も笑い話のひとつだ
まーまー相手の国は砂漠に慣れてないし！
楽勝楽勝!!

ドドッ
ドドッ
ドドッ
退け！
退けっ!!
どぉん
どぉん
火炮（フォパオ）だ
くそっ
思ったより
兵が多い
ビジャン！
将軍に
報告を――
あれ？
ビジャンは
……？
ンベェエエ～
ンベェエエ～
駱駝（ラクダ）の足が
折れて
捕まるとか…
ンベ～
ンベェエエ…
ツイてねぇわ
ほんと…

動くなよ!!
お前は運がいいな
今回はたまたま右弦(ウゲン)皇子殿下がいらしてるんだぜ
あの方は捕虜を殺したりしねえ
命拾いしやがって

いや今俺の事殺しそうな目で見てたぞ
目ぇ合ったよな？
ヤバいな～これ情報吐けとか言われるんじゃねーの？
もや
ドキ
ドキ
俺そんな大事な情報とか持ってないんだけど……
もや
右弦（ウゲン）皇子殿下の御成り――……
カッ!!

――随分と
間抜けな
捕まり方をした
そうだね
ビジャン――
…雀(ジャン)と呼ぼう
その目は？
どうしたのかな
キョトン
なんだ？
醜いって
言いたいのか？
「らしい」？
ボソ
昔 要人警護で
矢が刺さった
らしくて！…
ボソ
レッ
…怪我した時の
事はよく
覚えてない
は――…
……
覚えてない…

？
そーだよ
貴様っ
別に皇子様には関係ねーだろ
さっきから無礼が過ぎるぞ
忘れる程度の記憶だったって事さ
現に俺は元気に生きてるし何の問題もない
…まっ同情するなら国に帰してくれ
へらっ
ブチッ
任務が終わったら会いに行くって約束した女がいるんだよ～
なはは
苦労してる子なんだわホント
ブチッ
ブチッ
ハラ
ハラ
ちょっとでも売上に貢献してやりたいわけよ
ボリ
……ゆるさん…
ボリッ…
え？
帰っていいって？

帰すわきゃないだろ

貴方にはまず浄身(ジンシェン)してもらおう

浄身？

去勢だね

きょ…？

陽物(砕茶)を切って宦官として私に仕えてもらう

ちんこ切…？

？

？

かんがん？

？

？

ニコッ

残念だったね？

商売女どころか

女という女を容易には抱けない体になるねえ？

…っ!?

なんっだ
コイツ……

ニコニコしやがって
頭おかしいんじゃ
ねーの……

ポンッ

多大なご温情
賜ったんだぞ

良かったな

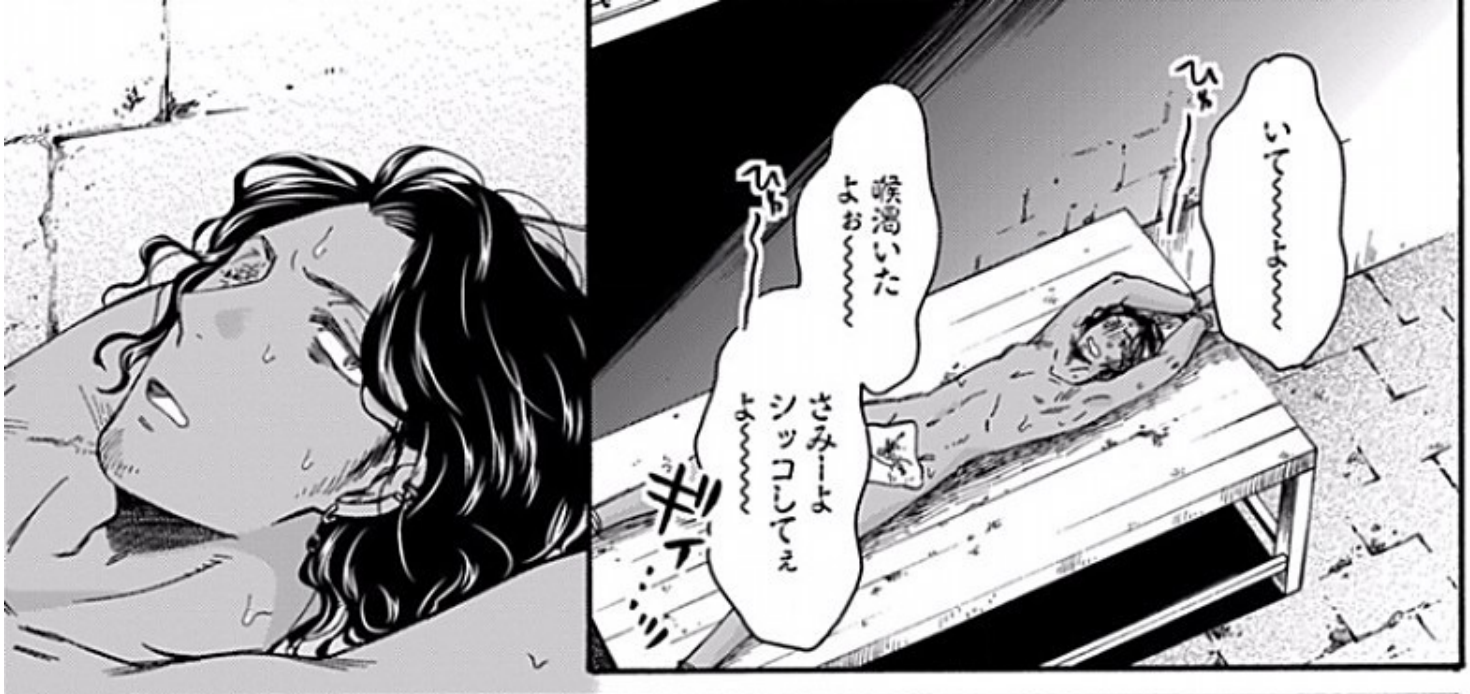
よ……

よく
ね〜〜よ…!!

ピギャアァア

ブッッ

ブーーッ


いてぇぇぇよぉぉぉ
喉渇いたよぉぉぉぉ
さみーよシッコしてぇよぉぉぉぉ
ギィ…

右弦(ウゲン)皇子殿下より仰せつかって参上しました
張春(チャンシュン)
枕蘭(チンラン)
揚丁(ヨウティ)…
…です
何でもお申し付けください

た…助かった…痛み止めくれ…
ダメでございます
はー
ここは戦場薬は我が兵が優先されます
はー
…じゃ水
ダメでございます
はー
あと一日我慢しないと
はー
しっこ
ダメで…
もーいい帰れよ!!

痛すぎる……
俺死ぬんじゃ
ねーかな……
ハァ
ハァ
皆そう
思いますが
これで中々
死なない手術で
ございます
ハァ
てき
ぱき
我々皆
乗り越えたの
ですよ
そうか……
あんたらが
宦官か……
ニコッ
キラ
キラ～
美
良い匂
ピカ
ピカ
……俺を
宦官にする
って……
無理だろ
これ
馴染める気が
しねーもん…

痛みで
眠れない
ようで
そうか……
すん
いてえよお～～～
すん
いてぇ～……
べそ
べそ
スッ
焚いてやれ
これは…！
殿下…あまり
捕虜を優遇すると
兵に示しが…
捕虜ではない
雀(ジャン)は
捕虜ではない
私の
想い人だ

要求は
出来るだけ
叶えて
やってくれ
……は
ばっ
喰(は)い……！
ふわっ
何それ…
痛み止めの
薬です
殿下の
ご温情ですよ
あいつの…
まじか……
まーいーや
ありがてぇわ…
ズ…

君にとってはそうだったのかもね……
「忘れる程度の記憶」……か…

ヨ…
ヨタ…
ヨタ
ヨタ…
ヨタ
ひと月で普通に歩けるなんて…
いて
ヨタ
いてて
おお～
回復がお早いですよ雀殿！
へへっ
そうか？
へらっ
じょわっ
しっこ漏れた…
だっ
大丈夫ですよ
最初の内は皆なる事です！
すまん…
いいんですよ
……

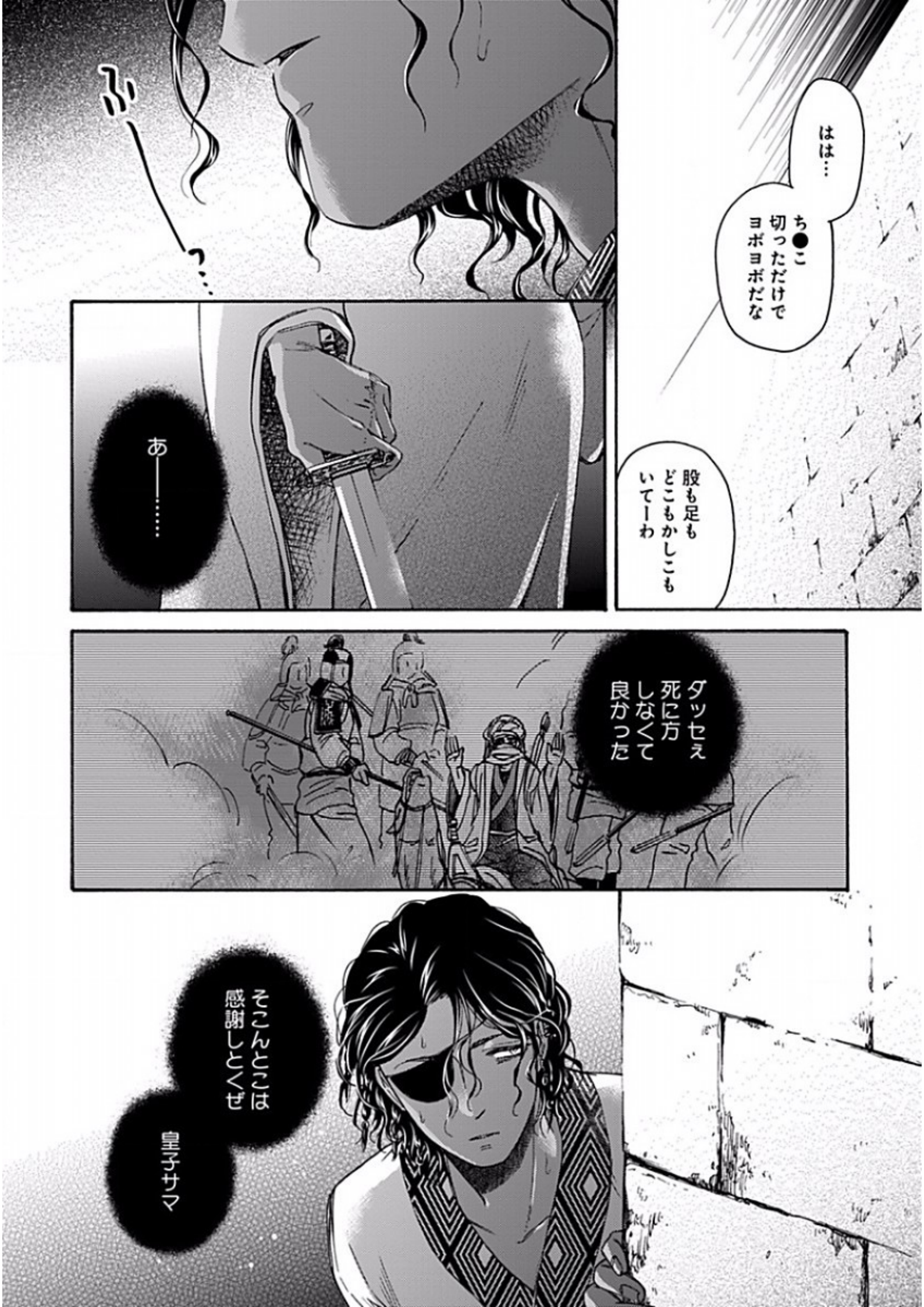
俺もう戻れねぇのかな……
雀殿(ジャン)…
いやっさすがに帰れるとは思ってねーよ？
思ってねえんだけどさぁ……
ち●こ取られるし
ヒゲも生えてこねーし
隊の皆が心配だし俺別にここでやる事ねーし…
ブイ
……
――雀殿(ジャン)もうあなたは帝国兵ではありません
殿下のモノなのです
ち●こもっぺん生えてきたりする？
キリッ
しませんねぇ…
あ～～～ぁ殿下ね！

ありゃ
ヤバい人の匂いが
プンプンするな
へっ
正直めっちゃ
コワい
あの
俺ぜってー
嫌われてるし
雀殿！
殿下がこの城砦に
いらっしゃらなければ
貴方は捕虜として
見せしめのように
殺されていたでしょう
ずい
それに
見たかぁ？
俺のち●こ
切れっつった
時の笑顔？
あ
あれは
快楽殺人者とか
そういう類だな
俺わかるのそーゆーの
うわわ
殿下を
命の恩人とは
思いませんか
はあ〜〜〜〜!?
あー……
いやま
アンタは
そう言うよな
宦官っつーのは
王族の私的奴隷
なんだっけ
まー
とにかく回復
しなきゃな！
え…
ええ！
そう！
そうですよ

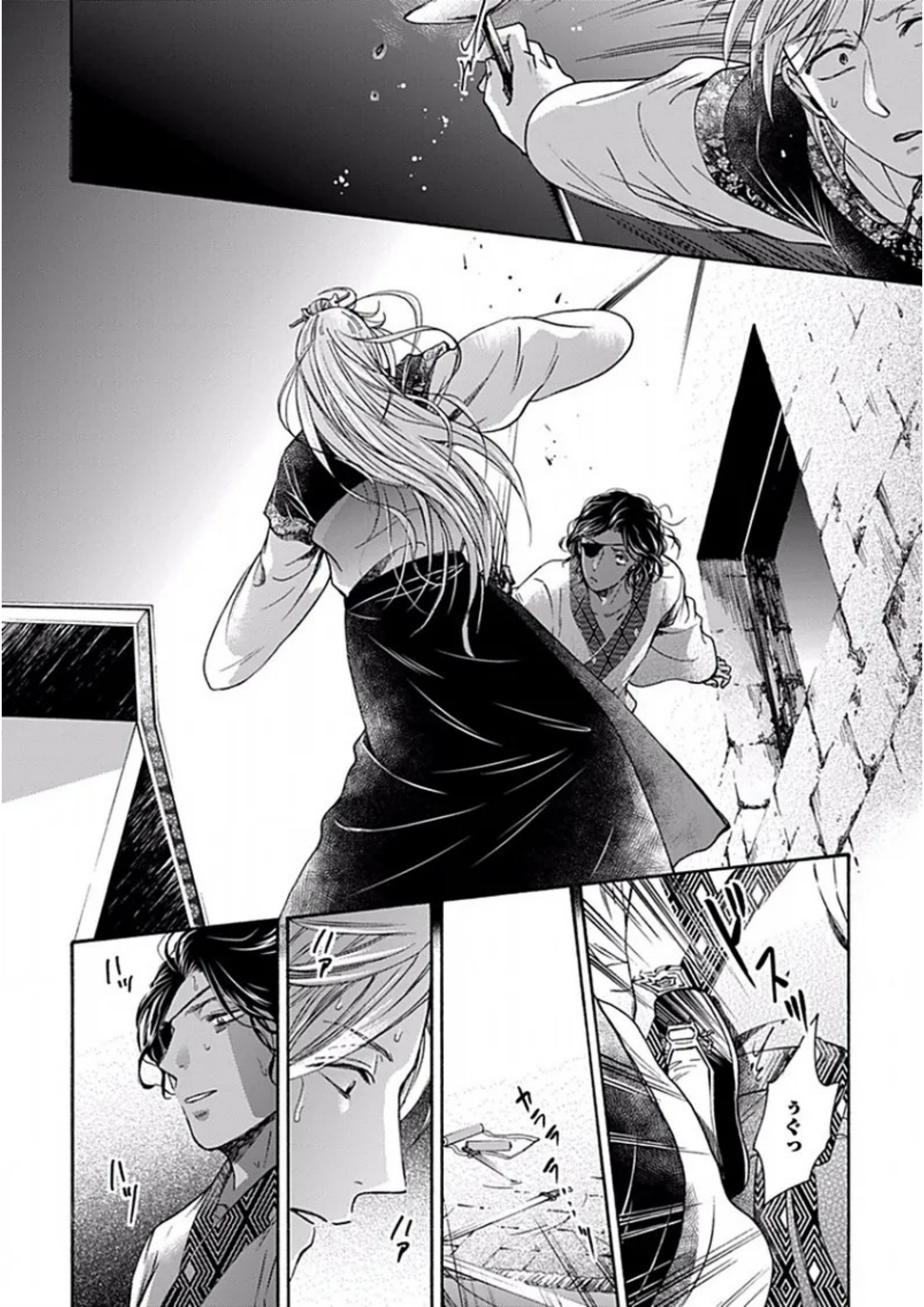
貴方の回復が早いと宮廷に帰る予定も早まります
帰る？ここの兵は引き払うのか？
常駐兵はそのままで殿下と我々だけ…
元々殿下は慰問にいらしただけですので
「帰る」って……俺は……
…………
…俺は置いてってもらってい一んだけど
またそんな事を…雀殿も宮廷へ帰るんですっ
雀殿食事を――
……
雀殿？
ドッ

悪いな
ずり…
う…
うぐ……
ずり…
こんな…
事をして……
ぐら
ぐら
あなた
まだ…回復…
ギッ
わりーけど
お前らの
宮廷なんかに
行きたか
ないんだよ
宦官に
なるのも
嫌だしな
ふはっ
…去勢された身で
宦官以外の
何になるんです…
バカな真似は
およしなさい

こんな事をすれば
貴方に
残される道は
死しかー……
……貴方
まさか……
……別に
死にたい
わけじゃねーよ
ただ……
俺は
兵士の自分を
気に入ってたんだ
ゴッ
ぐっ
ノらねぇ
んだよ
宦官
なんてさ
カラ…
カラ…


はは…
ち●こ
切っただけで
ヨボヨボだな
股も足も
どこもかしこも
いてーわ
ふ…
？…
あ――……
ダッセえ
死に方
しなくて
良かった
そこんとこは
感謝しとくぜ
皇子サマ

フッ
!?
バキ
みしっ
みしっ
バキ
バキッ


ドズッ
うぐっ
ハッ
ハッ
ハッ

バタ
バタ
バタ
…！
はぁ
はっ
はぁ
殿下！今何か…
あっ!? 捕虜！
!?
牢に居たはずでは…牢番は一体
よい構うな
ここに誰も通すな
…っ
嗻っ…！
……
…去勢させた私を恨んでいるのかな…？
――別に…
……ただ納得できてなかったからよ
俺は雀なんて名前でも宦官でもねーし…帝国兵の捕虜だ

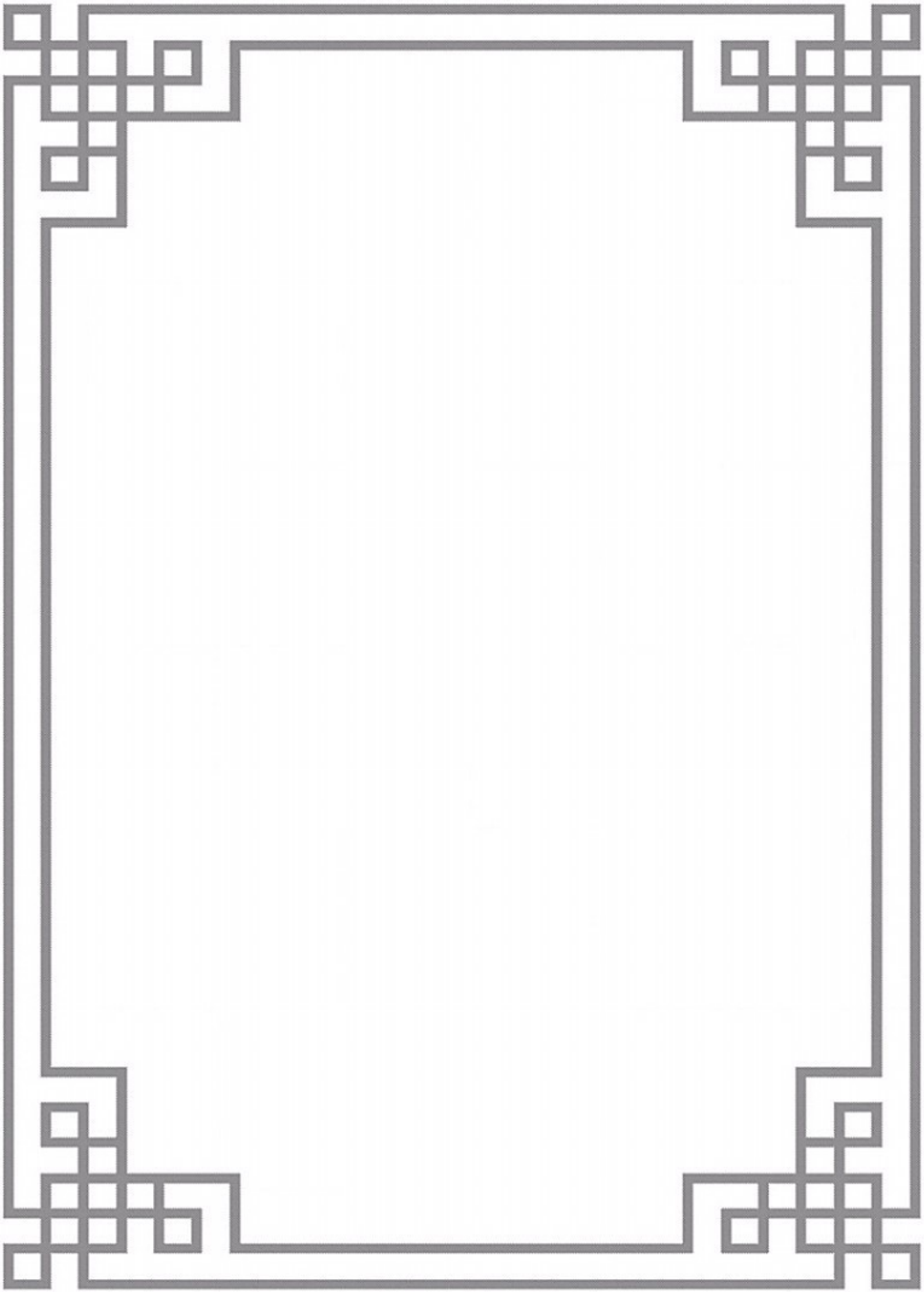
帝国兵が
敵国の皇子を
狙うのは当然だろ
んで
負けたら
死ぬ
俺にとったら
その方がなんぼか
マシなんだよ
ぎっ
びく
……私の宦官に
なるより
兵士として
散りたいとは
……
それ程私に
仕えたく
ないか…
傷つくな……
君と
話していると
とても傷つく…
ぐいっ

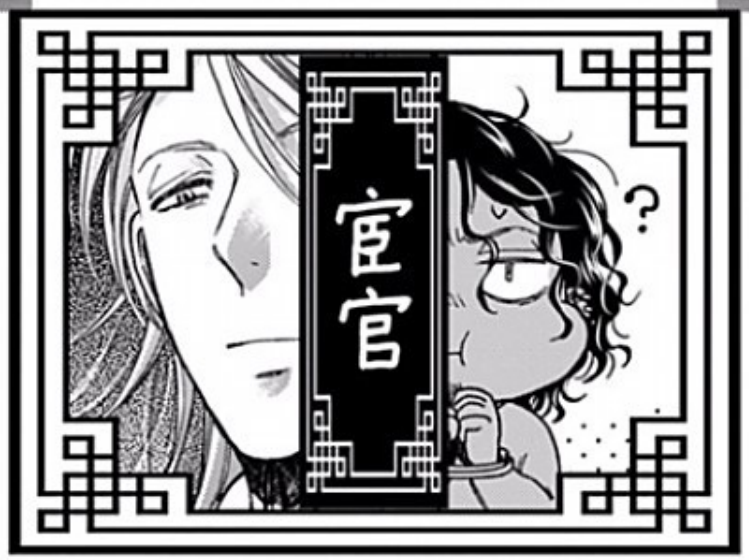
…雀(ジャン)
我が国で
宦官になると
いう事はね
それまでの
自分を捨てると
いう事だ
新たな生に
不安を感じて
いるのなら
私がこれからの
生き方を
教えてあげよう
ずるっ
ずるっ
ずるっ
いらねーよっ
俺はな！男で！
兵士なんだよ！
それ以外の
生き方なんて
したくねーし
する気も……っ
シャッ
……！

も
もう大体
わかったから
いいや
何が
いいのかな？
兵士以外の
生き方も
知らないと
お俺
体調悪いし
あれだけ
暴れておいて？
ところで
肛門での
性交経験は？
ねーよ!!
へぇ……
にひゃ
ちょ…
おいおい
おいおい
おかしい
おかしい
待て待て

わかった溜まってんだよな
誰かイイ子呼んでくる
ポイ
ポイ
可愛いのでも美人でもなんでも呼んでやるって
やめ…
ぎゃ
あ
——なんで…
どうしてこんな流れになったんだっけ…？
俺は…
ずっ
ずっ…っ
ひっ
うあ
はっ
はっ
はっ…
ぎゅう〜〜…っ
雀…大丈夫怖がらないで
絶対乱暴にはしないから…
ひぐっ
信じらんねー…
ハァッ
ハッ
まじでケツに挿れやがった…！
ぐっ
あぅ
びくっ
あ…
ま…待てっ
待って…そのまま…
は…
は…
ぶる
ぶるっ…！…
…

雀……
砂漠で見つけた私の至宝…
ふっ
ふっ
はーっ
はーっ
君は宮廷に帰って
私の妃になるんだよ
だからなんで……
一体何をどうすればこんな事になるんだ――……!?
……!??





宦官…かんがん。
中国では少なくとも殷王朝の頃から作られていた
約四千年の歴史を持つ存在である。
去勢された男性で、主に後宮で働く使用人の事を指す。

▼宦官の「供給源」

宦官は本来、
征服した民族、捕虜等から供給するものだった。

言葉もわからない国で去勢者となり、
どこにも馴染めない
「寄る辺のない人間」になった彼らは、
情報を売り渡す術も、
後宮から美女や宝を盗み出し逃げる伝手も、
何も持っておらず、何も出来ない。
反抗するような気概も去勢によって折られている。
そうして結果的に信頼度の高い使用人になる。

そもそも宦官という存在は使い勝手の良い奴隷なのだが、
彼らは更に都合が良い奴隷だった。

雀の宦官になる経緯も特別珍しいものではない為、
後宮では宦官仲間達に
割とすんなり受け入れられたのではないだろうか。

（時代がすすむにつれて、
宦官の主な供給源は移り変わっていく。）

ドッ
ドッ
ドッ
俺は雀(レン)なんて名前じゃない
宦官でもない
はぁ
ドッ
はっ
はぁっ
男に抱かれる趣味もないし
何一つ納得いかないのに――…
ギッ
雀(レン)……気持ちいい？
ギッ
ギッ
中すっごく熱いよ…
吸い付いてくる……っ

ばっ…かじゃね——の？
思わず本音言ったのが悪かったのか
君は宮廷に帰って私の妃になるんだよ
皇子サマの頭おかしい発言の後
意地になったみたいにずっと繋がってる
あっ
じゅっ
あっ
あっ
じゅっ
じゅっ
あっ
じゅっ
ずしっ
ぁあっ
びくっ
びくっ
もぉ
いー加減イかせてくれよぉっ

——ああ…
ほら
自分で触ってごらん？
——血が…
ドッ
ドッ
はっ
「そこ」に集まってるのを感じる
ドッ
ドッ
は……
ト。…
ふ？
ふぅ…
いつもみたいに握って……好き放題に扱けたら——…
すかっ
……!?

すかっ
すかっ
!?
!?
——雀(ジャン)？
お……
俺のアレが無い……っ
はっ
はっ
はっ
イきたいのにっ
うん……もう普通にイくのは無理だよ
ぬ…
ア
経験を積めば陽物(ムスコ)が無くとも極められる
ふ…

ぬぬ…
練習しよう？
雀
ぬぐ…
何回でも付き合ってあげる
ぎゅう…
ふっ
ふっ
——恐ろしい事に
尻に突っ込まれて若干気持ちいいけど…っ
ず——っと イけなくて イライラすんだよッ
ピギーッ
なんとかしろよおぉ
聞いてた？ すぐは無理だって
ばし
ばし
ギ…
ギシ…
ギッ
——だから
誰も入れてはいかんと命じられているのだ
そんな事言って殿下に何かあったらどうするんです
張春と兵士がこんなにされたんですよ
ギッ
ギッ

ちゅっ
アッ
ちゅっ
アッ
アッ
ぱちゅっ
ぱっ
ぎゅう…っ
ふる…
〜〜〜〜ッ…
ひぁ……
ぞくっ
ぞくっ
ぞくっ
な……中…
でてる……っ…
……っ
はっ
雀の中
脈打って…
きゅう
きゅうしてる…
はぁっ
そんなの
してねーよっ!!
ゴッ
もっと
してほしいって
事かな…?
ば……っ
——殿下!
しゃっ
ご無事ですか!?

びくっ

……っ

殿下に手を出すなんて

この不埒者っ変態っ

ズキ

ズキ

ま…っ

どー見ても俺が被害者だろ!?

やめなさい

嫌がる雀を無理に抱いたのは私だ

ズキ

ズキ

離してやれ

……

予定より早いが三日後ここを発つ

ささっ

準備しておけ

はっ

——殿下
恐れながら…
私はこの者を
連れて行く事に
反対です

どーぞ
置いてって
くれってんだ
ばばーん
願ったり
叶ったり
だっつうの

こんな
恩知らずの
粗暴者
必ずいつか
殿下に
害を為しますぞ
ぐり
ぐり
んだとぉ
何が恩だ

……
雀(ジャン)……
さっきまで
あんなに
可愛かったのに
……
まだ「宦官になる
くらいなら
兵士として
死にたい」とか
思ってるの……？

そんなに
私に仕えたく
ないなら
望み通り
死を与えて
あげるよ？
——だがそれは
兵としての死
ではない

私の愛人の
死として
盛大に弔ってやる
はァ!?
帝国にも…
短い間ながら
雀(ピン)がどのように
私を愛して
くれたか
詳細に
書き綴って
礼を伝えよう
ドッ
あ
ダメだ
こいつ
マジでやるわ
……っ
ぐ…
……
……
……
…う…
ぐう…
剣を
持って参れ
あ――
待て待て
待って!!

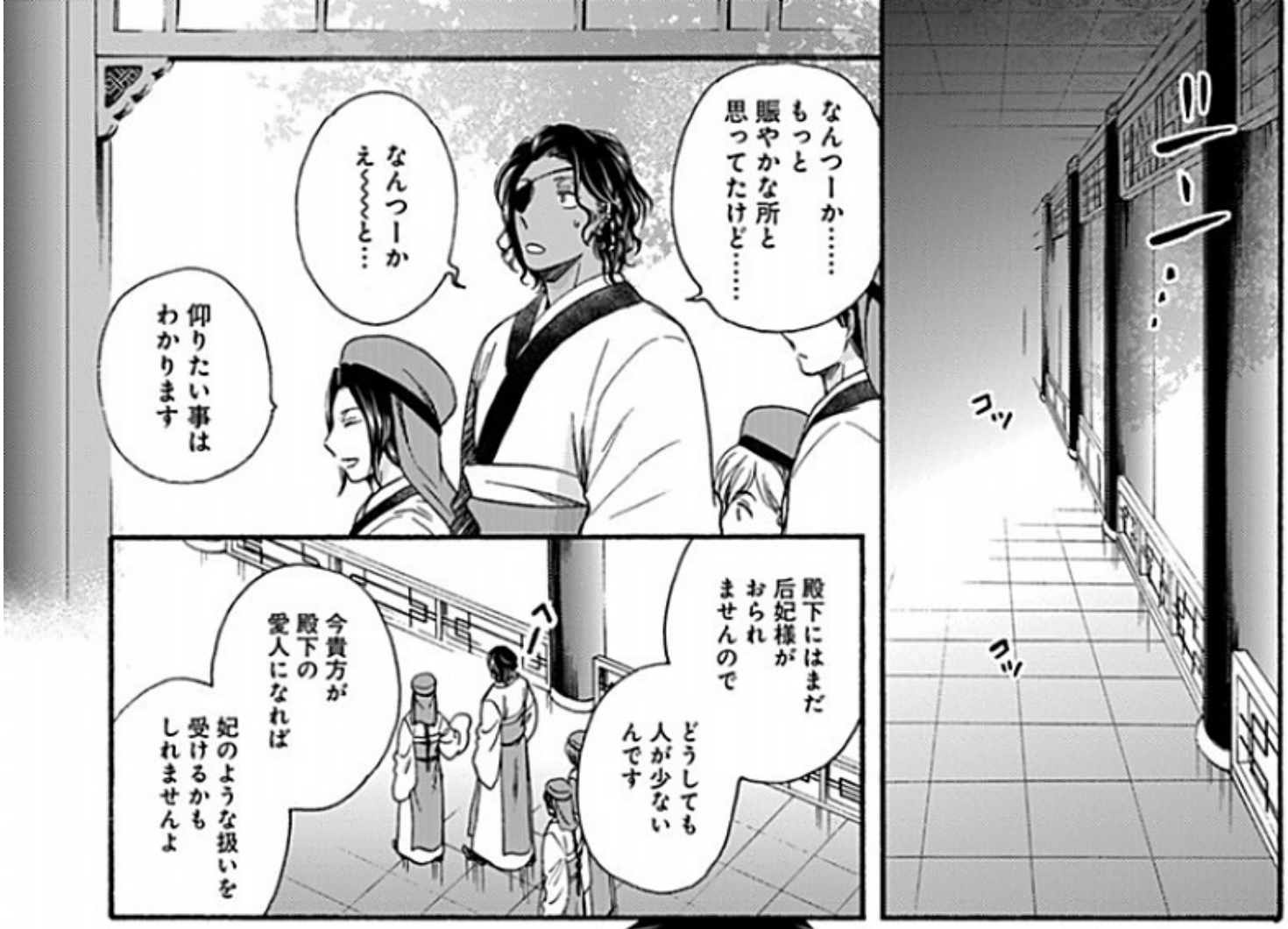
何？
遺言？
……
……っ…
…つか……
……
……る…
え？
何？
聞こえない
くくくくッ!!
あんたの国に付いてってやるっつってんだよ!!
——それでいーんだろ!?

……
じと
全然
嬉しそうじゃ
ないね…？
右弦様に
お仕え出来て
ウレシ――ッ
お
お
お
お
生きてて
ヨカッターッ
……
ビジャン
改め
雀――
右弦様に
お仕えします
カラーン
カーン

……
……前…
？
私の名前……
はじめて…
呼んでくれた
な……
ゴホン
——こうして……

俺は
「第二皇子サマの
宦官」として
宮廷に帰る
事になり
――ちびっこい
宦官達は
俺を「幸運な奴」と
罵った
ワァッ…
国が変われば
幸運の定義も
変わるもんだ
は～～～…
異国だ……

ふふ
では雀(ジン)
後で会おう
張春(チャンチュン)
頼んだぞ
はっ
雀殿(ジンどの)
我々は
こちらです
ザッ
ザッ
ザッ
こいつらは？
ザッ
宦官兵
ですよ
軍の中で唯一
火器を扱う事を
許されてる
部隊です
どがーん
あー！
あれか！
あれ
すごかったな～
俺も宦官兵
なれねーかな～
また
バカな事を…


なんつーか……
もっと
賑やかな所と
思ってたけど……
なんつーか
え〜〜〜と…
仰りたい事は
わかります
殿下にはまだ
后妃様が
おられ
ませんので
どうしても
人が少ない
んです
今貴方が
殿下の
愛人になれば
妃のような扱いを
受けるかも
しれませんよ
ヘー
コツ
コツ

……妃い？
なんか
言われたような俺
妃になれとか
なんとか……
んん!?
……妃い??
俺の
言葉の理解が
おかしいのかな
雀殿(ジャン)が殿下の
愛人になれば
付き人の私達は…
ごにょ
ごにょ
高官から
雀への贈り物…
の分け前
殿下から
雀への贈り物…
の分け前
ワーイ！
ワーイ！

ささっ
雀殿
今夜に備えて
湯浴びを
なっ
乳香を
たっぷり
使わなくては！
なんだ
急に!?
まず
衣装合わせを
しましょう
ここはやはり
砂漠の民の
神秘的な感じで！
異国情緒
いやいや
素肌に
大秦風に絹を
巻いて！
それより我が国の
文官服を
さっちり
着こなすのが
一番色っぽいです！
お色気系
脱がす楽しみ
……
……
……よく話しらい
ましょう！
誰が一番
殿下のご趣味を
理解して
いるかです
私でしょう
私ですよ
……あれっ
雀殿？

どこへ…
オ。…
逃げたな
まずいぞ
他の宮に逃げ込めば
ややこしい事になる
雀殿(ジン)～～～
おやつの
時間に
しますよ～～～
夜まで
隠れてよう
――なんだ
まだ
帰って
ないのか
申し訳
ございません
よい

へっ
へっ
せっかく
お前達を
紹介してやれると
思ったのになあ？
ふへっ

パタン
?
?
?
……
ふ
へっ
へっ
へっ
彼に好かれたいんだ
とても……
…でも
何を
どうすればいいのか……
いました？
いえ…
やっぱりこんな所までは来てないんじゃないですか？
早く宮に帰りましょう
コッ…
コッ…
はっ

コツ
コツ
コツ…
お？
なんだケンカか？
わくっ
ついてきた
第三皇子殿下付
宦官
ちょっと
端に寄ってくださる？
通れないじゃないですか
第二皇子殿下付
宦官
何を仰る
道は広うございますぞ
どうぞ端をお通り下さい
おや
ご存知ない？
私達は
第三皇子殿下の
宦官なの
？
上の者が
下の者に
道を譲れるわけ
ないでしょう
ほんと
アンタ何を
仰ってるんです
帝位継承者が
どなたか決まって
ない以上
皇子殿下に
明確な上下は
ありません
ほぉ～～～～
でも
后妃を娶られぬ方に
継承権は
ございませんなぁ
ぺっ
ぺっ
ぺっ
ぺっ

もごっ
后…后妃様は
これから
迎えるのです…っ
まあ～～～
それは楽しみ
ホホホホ
もごっ
ねち
それに
此度の慰問で
捕虜も得ず
ただ石や砂を
お持ち帰りに
なったとか
ねち
ねち
いやぁ
得難い
ご主人様とは
この事
ホーッホッホ
貴方達は
ほぉんとに
果報者です
なぁ～～～
お――い
そこの
イナゴ顔

何ッ
ばちぃんッ
よく
わからんが
ムカつくから
やめろ
な…
なんだ
貴様
サイテー
ひどーい
責任者に
抗議する!!
名前を言え!
お?
え～～～と
こういう時は…

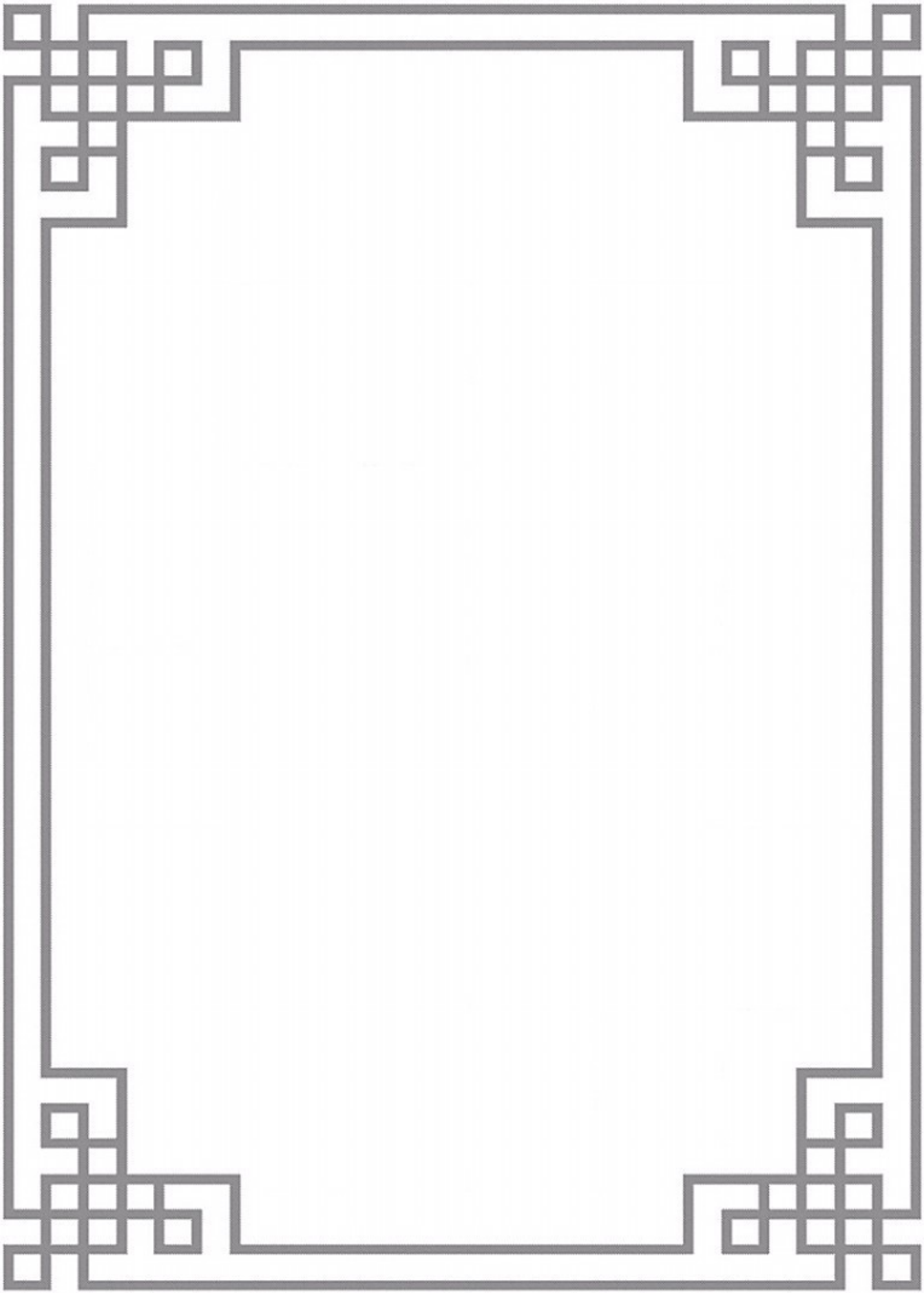
逃げる!!
ああっ
待て――っ
じゃ
雀殿
乱暴は…
一発殴っただけだろ
見たかあいつ?
鼻水垂らして怒ってたぞ
ふッ
そんな…
あはっ
くっ
はははっ
はは…
あはっ
あははは
ははは…
あ――ぁ

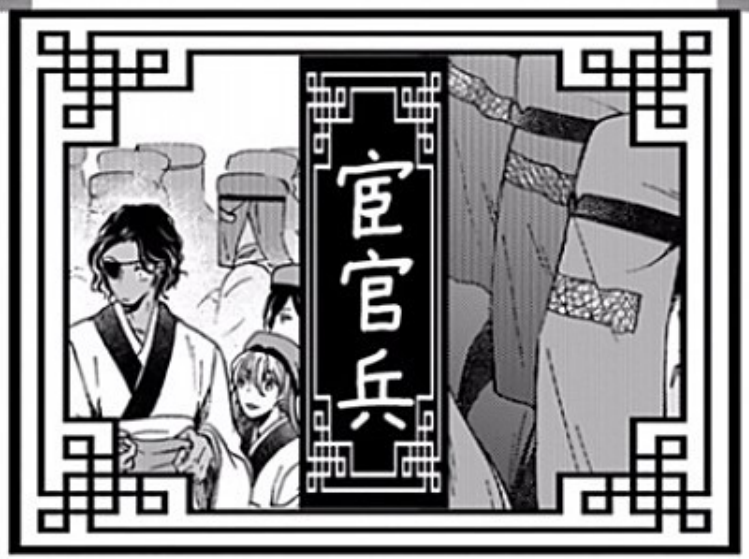
立ち聞きなんか
すんじゃ
無かったな
あ――……
悪い癖だ
人の内情が
見えると
強く出れなく
なる
私の名前……
初めて
呼んで
くれたな
静かな宮
飛び交う
陰口
行動の
一つ一つを
批評されて

なぁ 右弦(ウゲン)
お前んちって……
なんか さみしいな……
雀殿(ジャン)ー
早く 帰りますよ！
おう
今 行くー
そーいえば 何でこんな事に なったんでしたっけ
えーとお

しっかし ここ
第三皇子の宮
だって？
第二と
近すぎだよなー
ふわー
うわっ
誰だ!?
泰藍（タイラン）
ま
迷子か？
ちがう
ぎ…
さっき
うちの奴が
悪口言ってたの
あれ
兄上には
言わないで
ほしい

兄上には
ちゃんと
愛する女が
いるのだ
いつか妃に
迎えると
おっしゃってた
くらいだから
心無い言葉を
お耳に
届けとうない…
帰って
来ない……
うと…
うと…
……





▼軍に従事する宦官

明の時代では、
宦官の職務は主に十二監・四司・八局の
二十四の部門に分かれている。
その内の一つが「兵仗局」である。

兵仗局では武器を作っており、
特に火器（火薬を使った武器）は神器と呼ばれた。
神器は宦官だけが取り扱うことを許され、
戦の時は宦官が火器軍を率いていく。

機密の多い武器を任せるとは、
それだけ宦官が重用されている事の証。

宦官というとなよなよした様なイメージがあるが、
意外に軍隊でも功績を挙げている。
（というより、軍にも宦官の権力が及んでいたという事か。）

禁軍（皇帝直属の兵。近衛兵。）を率いて
乱を収めた高力士、
二十年に渡って兵権を掌握した童貫、
大船団を指揮し航海を重ねた鄭和…

もう少し地味な役で言えば
内城の門番も宦官である。
宦官の活躍の幅は、本当に広い。

ドッ!
うぐっ
ま…参った
なんだアイツ?
宦官兵にあんなのいたっけ?
……
ヒュン
ヒュン
ひ…ひどい
手ェビリビリするぅ~っ
さあ……
朝の鍛錬に混ぜろって言うから
兄上にはちゃんと愛する女がいるのだ
イラ
くそぉ……
イラ
妃になれとか言われて動揺したけど

真に受けてんじゃねーよ俺!!
ばーか ばーか
からかわれてるんだよぉおお
ドコ ドコ ドコ
ヒィ〜〜
雀
……右弦
昨夜はどうしたの?
私は待ちくたびれて寝てしまったよ
あ……あ〜〜〜
なんか迷子になっちって
今日からちゃんと仕事?するから
ふふっ

楽しみにしておくよ
じゃ…朝議があるからまた後で
お
おう……
……
う…
右弦(ウゲン)…！
……っ
う…
その……
好きな奴が居るなら
なんでこんなまどろっこしい真似して
俺なんか連れて来たんだよ!?
……う
あー…
何？
いや……

が…
頑張ってな
へらっ…
すぐ帰ってくるからー
はは…
……
……
…んで…
なんで…
言えねーんだよ……
くそっ……
俺ってこんなにうじうじしてたか!?
思った事は言えばいいじゃねーか!!

んご〜〜〜イライラする〜〜〜ココ
あっ居た！
雀殿！
もうあいつの名前山猿とかでいいんじゃない…？
ドドコドコ
ドッドッ
ドォン…
ドンッ
ワァアアア
下がれっ
門を閉じろ
退け――っ
ドドッ
ドオッ
将軍！
今日こそ砦を奪還出来るんじゃないでしょうか！
ドッドッ
ぬぅん
勝ってこその戦だ

死んだ兵もそれで初めて報われる
はいっ…！
……っ
ドン
ドン
え――……
我が国の戦況芳しくなく……
ぼー
兵と物資を送って欲しいと…
却下
そもそもどうしてこんなに制圧に時間がかかっているのだ
ゆや
誰の責任だ
わや
責任と言われましても

ゴォーン…
ゴォーン…
もうこんな時間だ
後は諸侯らでお好きに
あっ
殿下！殿下も是非お話を
私は用があるから
ザワ
国の未来たる皇子殿下があの調子では…
何にもご興味がない！
ザワ
静まれ！
では
ゴッゴッゴッ…
……
……
兄上は戦場から帰られたばかりでお疲れなのだ
話なら俺が聞こう
どよ…

殿下
お帰り
なさいませ
おお……
どよん…
…なにか
あったのか？
はっ
これはその
怒ったり
元気を無くしたり
急に笑ったり
情緒不安定
なのです
ぼしょ
ぼしょ
去勢した者には
ままある事です
どうぞ
殿下は
お気になさらず…
……
ふむ……

いいですか
お茶は
こうして……
ボエー
……ちょ
雀！
雀殿！
はっ
あっあ——
何？茶？
……
いい加減
しゃっきり
して下さい
殿下のご寵愛に
胡坐をかいて
怠けてると
後悔する事に
なりますよ！
ちょ
寵愛って
なんだよ
後悔とか
飽きられるのが
早くなるって
事です
ぐう……
？？？
ドッ
ドッ
ドッ
な……
なんか
わからんが
すげぇ
刺さる……
ほらもう
お食事の支度
行きますよ！

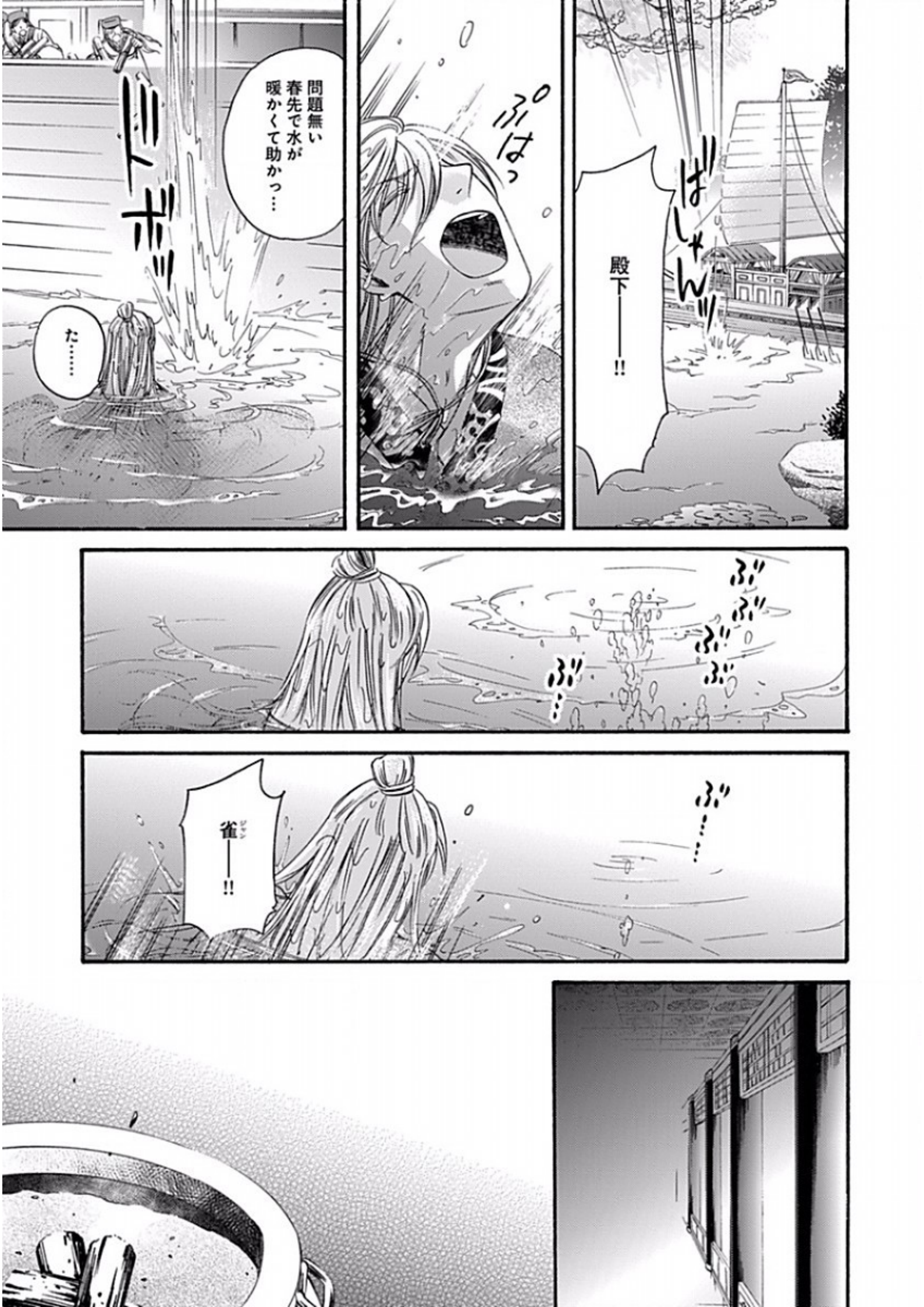
そうか…
もう梅花(メイファ)の季節なのだな
はい
庭園では今が盛りでございますよ
ん……
では雀(ジャン)後で一緒に見に行こう
にっ
な
なんで俺が花なんか
女じゃあるまいし
花を見て心安らぐのは女だけではあるまい？

…これでも一応
其方を無理やり
連れてきたという
自覚はあるのだ
だが来たからには
少しでも
ここを好いて
ほしいと思う
…私の側で
楽しく過ごして
ほしいと
ぴくっ
……
―なんか
やっぱ……
口説かれてる
気がする……

――聞きゃいいんだ
「女がいるのか？」
ぶしゃーッ
「何故俺にかまう？」
ブボッ
ブボッ
「去勢までさせて何故俺を連れてきた？」
「俺に……」
「俺は……」
プシュー
もん
シュー
もん
っあ～～～っ頭痛くなってきた
こーゆーの向いてねーんだよ俺はっっ
敵陣に単身突っ込む方が気が楽だわ
……

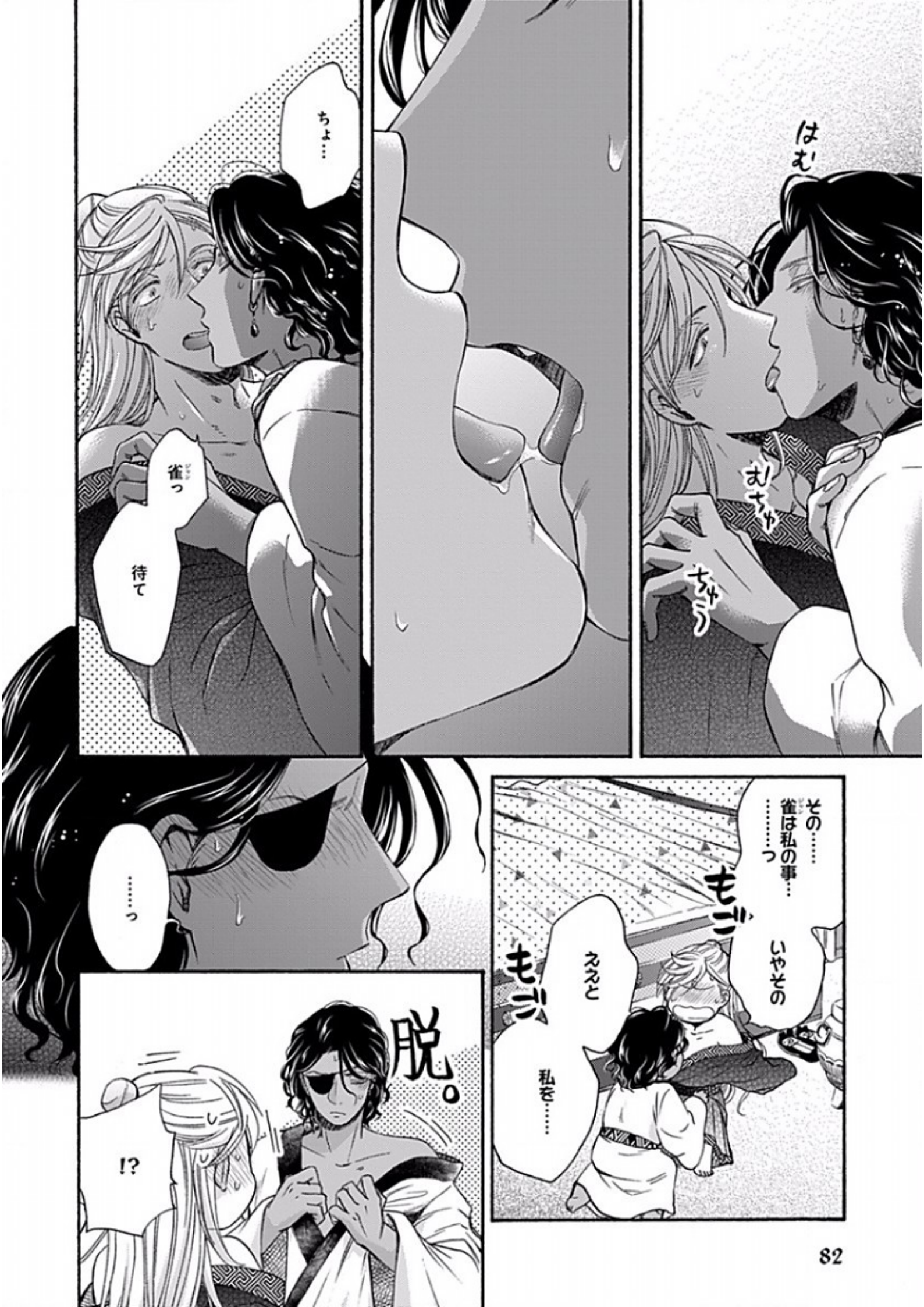
雀……
故郷が恋しいのか？
えっ
この国に来てからずっと元気がない…
それとも何か――…
す…
びくっ
ふわ
びびっ
び…
び…っ
……っ
だっ
大丈夫大丈夫っ
全然元気だしっ
ばっ
あ……

雀(ジャン)！
バカ
そんなにしたら
お前が……


ばしゃんッ
殿下――!!
ぷはっ
問題無い
春先で水が
暖かくて助かっ…
ドボッ
た……
ぶぶぶぶ
ぶ…
ぶ…
雀――!!

なぁ
ん
……俺……
この国に
居る意味あんの
パチ
パチ…
いっ
居てくれないと
困る……！
雀(ジャン)を手に入れる前の
私がどれ程
つまらぬ毎日を
送っていたか……！
……君は
私が嫌い
だろうけど…
私はっ……

……嫌いじゃねぇよ……
ボソッ
ガシッ
……
……え……


はむ
むちゅ
ちゅう
ちょ…
雀(ジャン)っ
待て
その……
雀(ジャン)は私の事……っ
もご
いやその
もご
ええと
私を……
……っ
脱。
!?

……
……なんだよ
俺が欲しく
ねーのかよ
どっ…
どうしたのだ
雀(ジン)
いるか
いらねーか
はっきり言えって…
…欲しいに
決まってる…
……
どのくらい？
女より…？
女……？
比べるべくも
ない……
ほんとかよ…

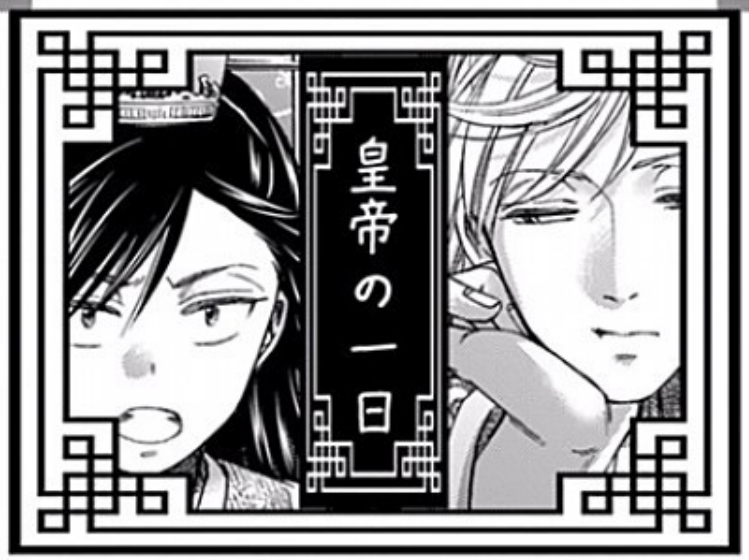
んっ
んっ
ギシ
ギッ
ギッ
ギッ
お前が切っちまうからっ…
ギッ
ギッ
楽しみが激減だ……っ
ふっ
…でも
男性のままだと君を後宮には入れられないし…
ふうっ
それに……
フッ…
びくっ

陽物があると
君はあっという間に
女に手を出しそう
だからね……
ひっ
ああっ
ぬりゅっ
ぬちゅっ
ちゅっ
やばっ
ぞくっ
ぞくっ
〜〜〜っ
ぞくっ
体がすげえ
興奮してる……っ
ちゅぱっ
指の指紋まで
わかりそうって
ゆーか
ちゅっ
ちゅるっ
ちゅっ
もどかしい……
早く
中に挿れて
はっ
あの場所を
優しく舐って
ほしい……
はあっ
はっ
雀……
ひくひく
してる…
ばっ
は
離せよっ

なんか……
ごくっ…
思ったより
イケるかも……
ぱりっ
も
もういい
わっ
雀(ジャン)そんな事
しないでも…
ぺろ…
これからが
楽しいのに
そんなに
されたら
すぐイッて
しまうだろう…
ぬ～～
……っ
できれば
雀(ジャン)の中に
挿入(は)いりたい
な……？
……っ

ギッ
ギッ
ん
ギシ
はっ
はっ
ギッ
はっ
う
右弦っ
はぁ
ギッ
強すぎ…っ
ぱっっ
ぱちゅ
はっ
あ！
ちゅっ
ぱっ
雀……っ
お尻
気持ちよく
なってきた…？
ギッ
ギッ
はっ
あっ
あああああ
ひっひもち…
気持ちぃ…っ
はぁっ
求め
合ってる…
気がする
体だけじゃ
なくて
全部
欲してるような
ふ…
はぁっ
……皇子様
だもんな
女くらい
何人だって
いるさ
はっ

でも
今この時は
俺だけ――……



＊今作に登場する王族は皇帝ではなく皇子なので
あてはまらないが、
清朝の皇帝の一日の流れをご紹介したい。
ちなみに帝位につかない皇子は成人すると、
後宮から出て行かなくてはならない。
宮廷の外から、皇帝の最も近しい臣として仕えていく事になる。

▼皇帝の一日

朝四時頃、宦官に起こされ、
沐浴を済ませてから軽食。
大臣達と早朝の謁見。
それが終わると、寝室に戻り少し眠る。

七時頃朝食をとった後、
午後三時頃の夕食まで、また政務を行う。

少し休んだ後は、妃達と語らったり、読書をしたり、
学者の話を聞いたり、宦官の催す劇を観たりした。

午後五時以降は軽食や酒膳をとり、
気が向けば閨に妃を呼ぶ。

▼宮廷のルール

一見優雅だが、宮廷内には決まり事が多く、
皇帝でもその決まり事は動かせなかった。

例えば皇帝と宦官が麻雀のような遊びに興じても、
決して皇帝に勝ってはいけないという暗黙の決まりがある。
宦官達は巧みな負け方を磨き、皇帝を楽しませた。

他にも、皇帝は宴席以外では基本的に一人で食事する事。
皇帝と話す時は目を合わせてはいけない、伏し目で話す事。
等等…。
これらの規則は、離宮などでは緩和される為、
皇帝は一年のほとんどを離宮で過ごしたりした。

あそうか
俺 こいつが 好きなんだ…
……

ちょ……
ガタ
ちょっと雀(ジャン)……
ガタ
いーだろ
誰も来ないって
右弦(ウゲン)が
そう言ったんだろ
……
好きって
自覚してから
タガが外れた
みたいに
こうして物陰に
誘い込んでしまう
右弦(ウゲン)ッ
はっ
右弦(ウゲン)……ッ
はっ
あっ
すご…
深い…っ
はぁっ
はっ
雀(ジャン)
可愛いよ
ふっ
ふっ
こうして
ずっと
見ていたい……

その内右弦(ウゲン)も俺を誘うようになって

あぁ…あ

もっ……

ぬぶ…

きゅ

きゅうう…

びくっ

あ…

っすごい…吸って……

ア…

っ……

ぞくっ

はっ

はぁっ

ぞくっ

暇さえあれば繋がってるような——

爛(ただ)れた毎日……

殿下
あまり派手になさると雀殿が批難されますよ
ボソ
この性欲バカッ殿下にかかるご迷惑を考えろっつーの
ボソ
ん
心配をかけたな
……雀が積極的になってくれて…
はしゃいでしまった
右弦…
まぁいいですけど夜にお部屋でね！
ちょっとハメを外しすぎたな
暫く大人しくしておこう
ヤらないって事？
う…そうだな控えよう
吻も…？

それは……
いいんじゃないか
ふぅん……？

ちょ…
雀(ジャン)！
ちゅっ
ちゅぅ
吻だろ――

あれ
たってる
……
へへ
俺
これ……
ぺろ
好きかも……

か…わいすぎる
くくくくっっ
雀
私も…
ちゅぱっ
じゅっ
じゅっ
ダメ
控えるん
だろ
…吻だけ
だから
かわいい…
吻だけ？
はっ
うん…っ
吻だけ……
はっ
じゃ…
断れねー
なー…
――雀
ここでの
暮らしに
不自由ないか？
大丈夫
だーって
右弦は
よくそれ
聞くよなー
ふぅ
ま強いて
言うなら
退屈だな
……そう
だろうね…
外の屋敷に
でも移れば
多少は気も
晴れようが…

えっ
外で暮らせんの!?
本来は宮廷に住む成人男性は皇帝陛下と太子だけだ
でも今は誰が太子になるかでモメてるから…私の都合だけで外に住むのは難しい
早く王宮の外で雀(ジャン)と二人のんびりと暮らしたいものだよ
お…
俺と?
ムッ
其方以外誰がいるのだ
えっと……
女……とか…
なに
それ

……まさか雀(ジャン)
私が
花心(かしん)な男だと
思ってるのか!?
あぇっ
だって妃に
したい女が
いるって
はぁ!?
其方の！
事だろうが！
あっ
えっあっ
カ！
あっ

そっか……
……そ
そ……
そうだ
しん…
じゃっ
じゃ――
楽しみに
してなくちゃな！
外に出たら
とりあえず
美味いもん
食い歩いてー
あ
訳教の寺にも
参りたいし
あー一緒に
俺の国にも
行きてーなー
戦争中だし
無理かなー

知ってるか？
砂漠には石の花が咲くんだ
子どもの頃はよく集めてた…
こんなやるよ
夜は星が綺麗だし
ヘビだかトカゲだかよくわからん生き物がいるし
旅の途中で食べる羊は格別でさ——…聞いてる？
はっ
あ…
まー行ったらわかるって！良さが！

ああ……
そうだな…
なんだか
とても――
懐かしいよ

い…今
なんと
仰いました
兄上
ガタッ
帝国と
停戦交渉する

でも
それは……
今までかけた
金銭と人材…
誰がどう
責任を
とるのですか
私が帝位継承権を
放棄し
其方の後見に
着こう
そもそも
帝国との争いは
私の帝位継承に
箔を付けたいと
思った者達のした事
私が責任を
取るのが
相応しかろう
ハッ
いやでも
……
……そんな
あ兄上が
やった事では…
積極的に
止めなかった
のも私だ
…もう
陛下にも
ご許可頂いた
どうして
そんな事に
父皇が許可を…
……
……陛下は
私に帝位を
継がせたくないと
お考えだからな
ええっ？

私は上皇様が陛下の妃に手をつけて出来た子…
発覚が遅かったから私は今でも陛下の子となっているが
陛下と私は兄弟……其方とは叔父と甥だ
ピキッ
……私よりも其方が太子になった方が良いという事だよ
あに…
兄上……
でも……
今まで一言もそんな事仰らなかったではないですか……！
どうして……
何が兄上を決断させたのです…？
其方には苦労をかける……
――どうしてと聞かれて

説明したところで
わかってもらえる
気がしない
父と呼んでいた人に
母と兄を殺され
死か
政治の道具に
なるか
選ばせて
やろう
不実の子よ
ガタ
ガタ
ガタ
命惜しさに
帝国の人質と
なりに行く私に
ここからは
我々帝国軍人が
お守りします
付いて来て
くれる者は
少なかった

そんな中
しゃっ
うわぉ
かわいーじゃん！
姫様だ!!
言葉通じてる？
娘々
娘々
カワイーネ
トテモ
でっ
殿下
ゴッ
いでっ
申し訳ない
ほら謝れ
ビジャン！
すいぁせん
したァ
姫様ぁ
ボコッ
あでっ
何の
てらいもなく
話しかけて
くれる少年
お前 男なん
だってな
うえ～～～～
ガッカリ～
～～～～

ボソッ
あっちいけ
ぶさいく
あ今お前
なんか
悪口言ったろ
わかんだぞ
そーゆーの
おんッ!?
よーし
中立
似合ってるぜー
……
私が彼に
どれ程
救われたか
——……
俺
星見つけんの
めっちゃ
上手いんだぜ
雀(レン)が
何も覚えて
なくても……
私が彼から
受けたものは
変わらない

——よって…
これは
勅命である
私は継承権を
放棄し
帝国との
停戦交渉に
出向く
ざわ
ざわ…
異論が
ある者は
責任を持って
発言されよ
ピタ…
では……
これで朝議を
終わろう
どうして……
何が兄上を
決断させたの
です…？
フッ
フッ
——雀(リャン)だ

雀(ジャン)だけが
私を動かして
いる――……
ザラ
ザラ
な～～～んか
変じゃね？

なにがですか
なにがってそりゃー右弦(ウゲン)だよ右弦(ウゲン)!
殿下とお呼びしなさい
ばーん!
…殿下が軍議だ会議だっつって全然来てくれない
口実だろ絶対……俺なんかした?
……
たるんだんじゃないですか……肉が
だっ それはおま
殿下様が来ねーからッ
ツヤツヤ
プリ
プリ
食っちゃ寝
食っちゃ寝
太ったから来ないんじゃないですかね
今からでも間に合う!! 鍛え直しなさい!
棒振り百回
ぎゃあ
ご飯とおやつ減らしましょう
ぎゃあ
やだあああああ
……

触んなって
うわっ
ほんとに
ぷよぷよ
断食しなさい
——宜しいんですか？
本当に何も告げずにご出立されるので？
ああ
道中で手紙を送るよ
それまで誤魔化しておいてくれ
はっ…

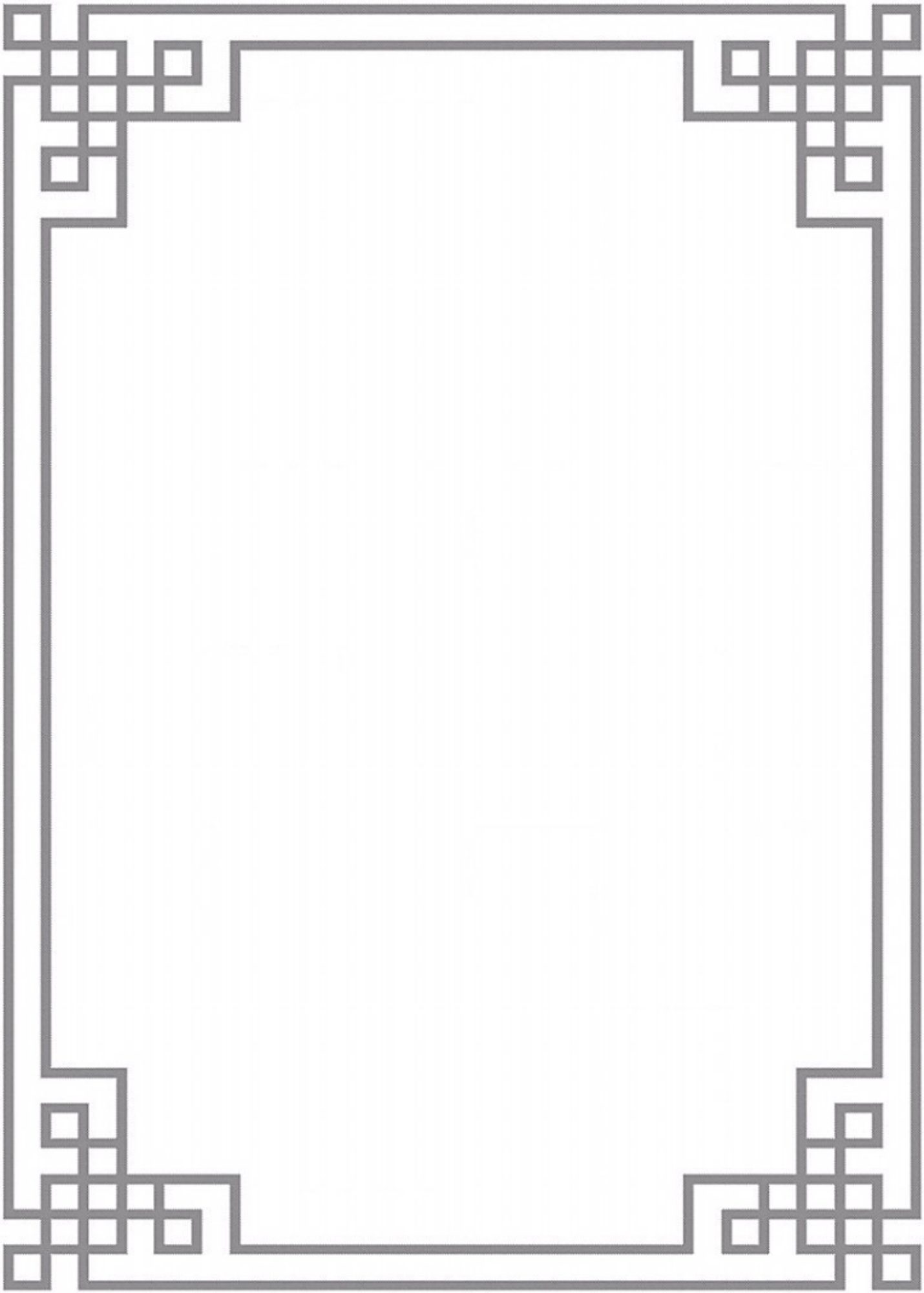
雀（ジャン）は……
付いて行くと言うだろう

だが実際付いてこさせれば
私は彼に「故郷に刃を向けろ」と命じなくてはならない

…そんな命令は
彼にとっても…
私にとっても
――残酷だろう
……
――雀殿(ジャン)の事で
お悩みですか？
大丈夫ですよ
宮には
沢山人が
いますし
寂しく
ありません！
うむ…
それに留守を
待つのも
情人の
勤めです！
そう…
かな
そう
ですとも！
プー
ピー
プー
……
プピッ
……
おいデブ

んあ？
なんだ
お前ラか
むち
むち
デブって
呼ばれて
起きるんだ…
……
はあ……
俺……
やっぱ
飽きられたの
かな――……
だってもう
三日も放置
されてんだぜ？
自分からは
会いに
行けねーし
食う寝る以外に
する事
ねーだろ
ぎゅ…
……
でかい図体して
やめなさい
みっともない
ホラこれ
――何
殿下から
お手紙
ですよ
手紙ぃ!?

……殿下は
二日前に
西の砦へ
ご出立された
お戻りが
いつかは
決まってない
ぎゅむ
……俺
あいつから
なんにも
聞いてないん
だ…けど……
なんで…？
カラ
カラ
カラ…



▼宦官の娯楽

宮廷内に休暇というものはない。
が、たまに何時間かの暇をもらい、
宮廷の外へ遊びに出かける事は出来た。
（都から何里までしか行ってはいけない、等の制限はある）

外へ出るには鑑札が必要で、手続きが大変面倒だったが、
金銭に余裕のある宦官は
それでも出かけ、廓などにしけこんだり、
宦官御用達の風呂屋に行ったりしたようである。
外に妻子や妾が居る者は、
家族水入らずのひと時を過ごしたりもした。

彼らは賭け事も好きだった。
ボードゲームにカードゲーム、麻雀のようなもの…
仕事が終わると下級宦官達にお茶とお茶請けを用意させて、
銀貨を賭け、時には夜食を食べながら徹夜で楽しんだ。

下級宦官は下級宦官で銅銭を賭け、怒鳴りあったり
机を叩いたり、賭けは白熱した。

勤めさえきっちり果たせば、徹夜で賭け事を楽しんでも
咎められることはなかった。
お金を出し合っておやつを買い、
それをほおばりながらまた賭け事をする。

女遊びをしないなら、
酒、賭け事、食が楽しみだった。

阿片が流行した時代は、
宦官の中には身を持ち崩すほど阿片にハマる者も出た。
忘れたい現実や将来が身に迫っている彼らなので、
依存性のある物には弱かっただろう。

ぎゅっ
はっ
……あれ…？
雀（ジャン）……？
ちゅっ
雀（ジャン）どうして
こんな所に
……
お前
帰ってくんの
おっせーから…
来ちゃった
じゃん……
来ちゃったって…
ここ……
ここは……

陣中だ――

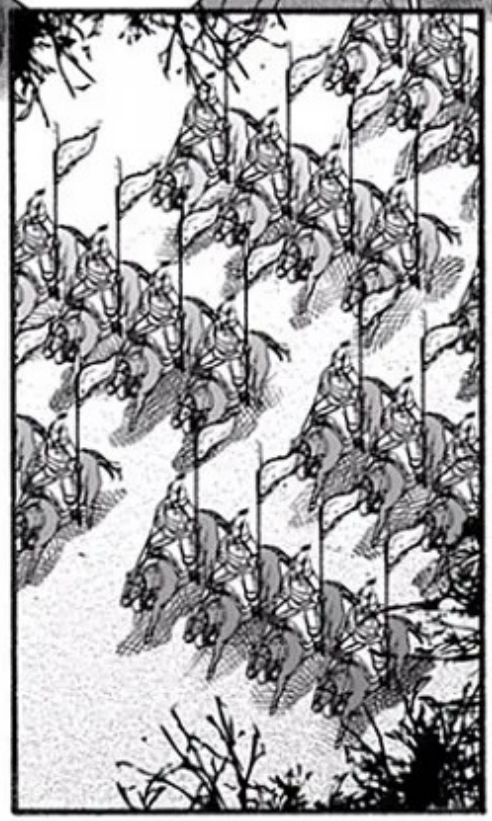
はっ

はっ

はっ

はーっ…

はっ…

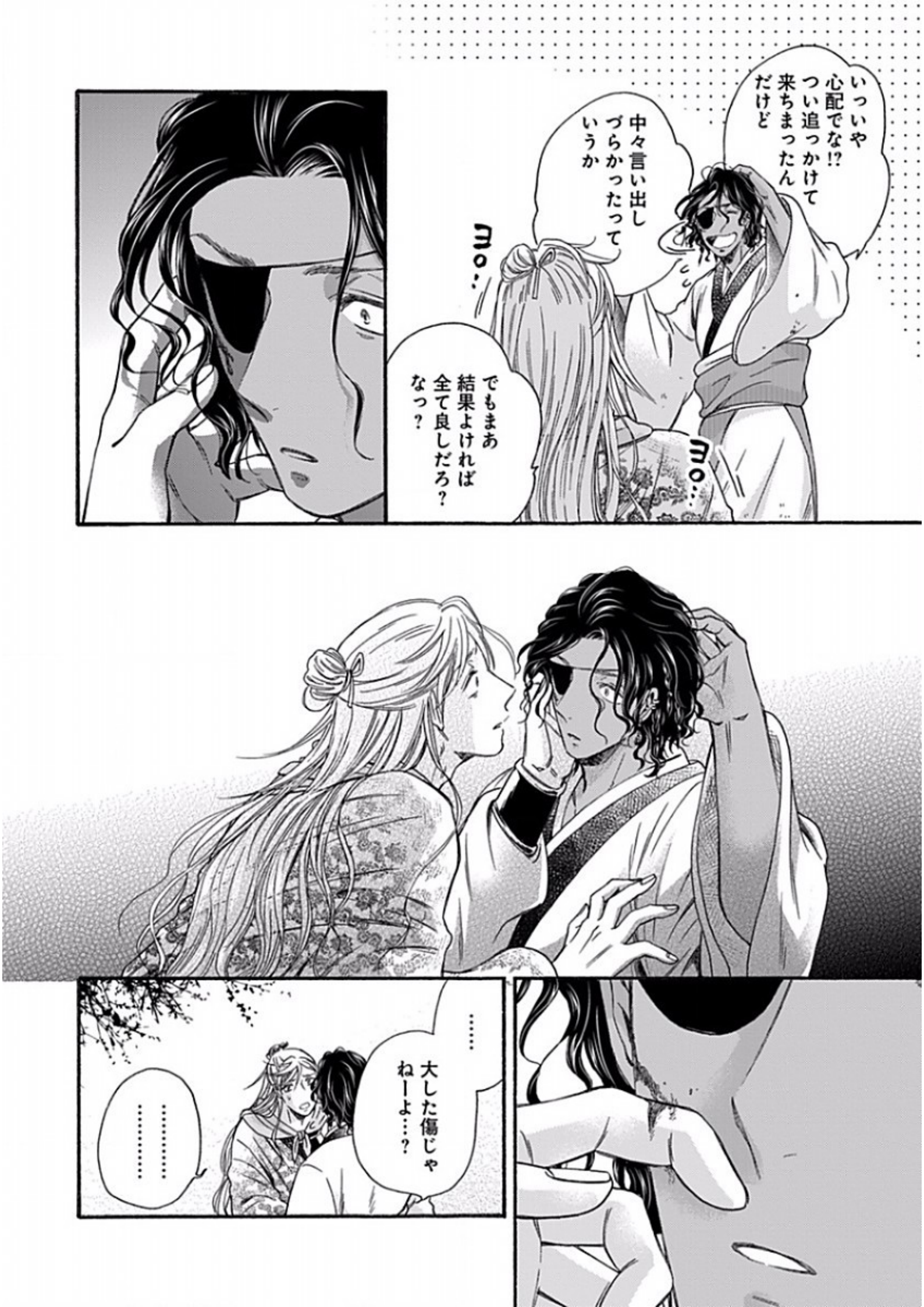


やっと玉門関です
西端の砦まで
もうすぐですな
ああ
さっさと
済ませて
帰りたいものだ
はは
それは……
どうでしょうな
交渉は
難航するもの
です
わかっては
いるが――
しゅ……
襲撃だ!!

うわっ
おっ
落ち着けっ
どさっ
殿下！
誰か
殿下を——

ヒュオオオッ
ちっ
雀!!
ワァアア
ななんだ
あいつは
宦官!?
ドドッ

ぶぉっ
キリがねぇ
狙うは大将――
だっ
…
…
…
…
…
…
おお……
敵が退いていく…
ざわ
ざわ
あの距離で槍を投げるとは……
なんという剛の者だ…！
ハァッ
ハァッ
じゃ……雀…
雀っ！
ヨ。…
びくっ


いっいや
心配でな!?
つい追っかけて
来ちまったん
だけど
中々言い出し
づらかったって
いうか
ヨ○!
ヨ○!
でもまあ
結果よければ
全て良しだろ?
なっ?
……
大した傷じゃ
ねーよ…?
……

……馬鹿……!!
防具も無しに
前に出る
なんて……!!
ばか……!!
ばか
雀ッ……!
どうして
前に
出たの……!!

雀……
雀？
はっ
あ…
ああうん ごめん
……
？
いや…
なんか 昔……
同じような事 怒られた 気がするなーって ……
はは…
殿下… 先を急ぎ ましょう
玉門関まで もうすぐです
ボロッ
手当てを なさい ませんと
ハハ…
アハハ…

わはは
殿下
殿下もどうぞ
もう一杯
いや私は
もう充分
候(こう)こそ
もう一杯
このような
歓迎
痛み入る
いえいえ
玉門関を
預かる者として
当然の事です
今日殿下を
襲ったのは
多分匈奴(きょうど)
でしょう
北は匈奴
西は西戎(せいじゅう)
ここらは本当に
敵が多い
西端の砦など
手に入れても
維持にかかる兵で
赤字ですよ
停戦して
撤退すると
聞いて
安心しました
すごいぞ
ぷぁ――っ
二十杯目!!!
おぶ……
もう無理…
情けねーぞー!
俺あ
まだまだ
いけるろ!

雀殿はどこの出身かな？
ちや
あの剛腕！宦官なのが勿体無い
ほや
雀殿が居なければ今頃どうなっていたのやら
ちや
殿下からどんな褒美を賜るんでしょうなあ
ほや
そら〜〜おめー……
愛らろ!!
……
ズーン
殿下は個性的な宦官をお持ちでいらっしゃる
いやアレは……
……
……
アレは……この玉門関に残していこうと思っているのだ
……頼めるか？

ヨタ
ヨタ
雀(ジャン)飲みすぎだ
あはは
い〜やいや このくらい まだまだ〜
一体…… いつから 隊に居たんだ
ん〜〜〜?
右弦(ウゲン)が手紙 くれたろ?
危ないから 宮廷で待ってろ とか何とか…
やしっ
俺は深窓の 姫君かっ つーの!
ムカついたから 速攻で 追っかけてやろうと 思ったらさ……
よじ
よじ
おい
こんな夜中に 何してる

宦官の脱走は重罪だぞ
第三皇子…えーと泰藍(タイラン)様？
……
意外に話のわかるいい子でさぁ
俺に服とか武器とか……旅支度も用意してくれて
こんも
こんも
兄上は武に秀でたお方ではない
お前の腕がどれ程のものか知らんが……
お守りしてくれ
――んまそっから走りに走って割とすぐ追いついたな――
はぁふぅん
……
……
……泰藍(タイラン)…

へへ
……俺来て良かっただろ
俺に会いたかっただろ？
にじ
にじ
…ああ夢にまで見た
だはっまじかよ
あまり褒めたくないが…
そうだな助かった
だろぉ？

…もう…
何も言わずに
置いてったり
すんなよ…
……
……悪かった…
雀（ジャン）…
頼みがある

この玉門関は重要な拠点だ

誰か将を置いていきたいが適任がいない

…私が皆から帰ってくるまでここを守ってくれないか？

頼み

重要

守ってほしい

……

いいぜいいぜ

まあ任せとけよ

ボッ

で？どれくらい待ってりゃいいんだ？

それは…長くて半年……

ぴーん

早く済めばひと月とか…

相手次第だ

ばっ長すぎだろ!!

右弦（ウゲン）はそれで平気なのか!?

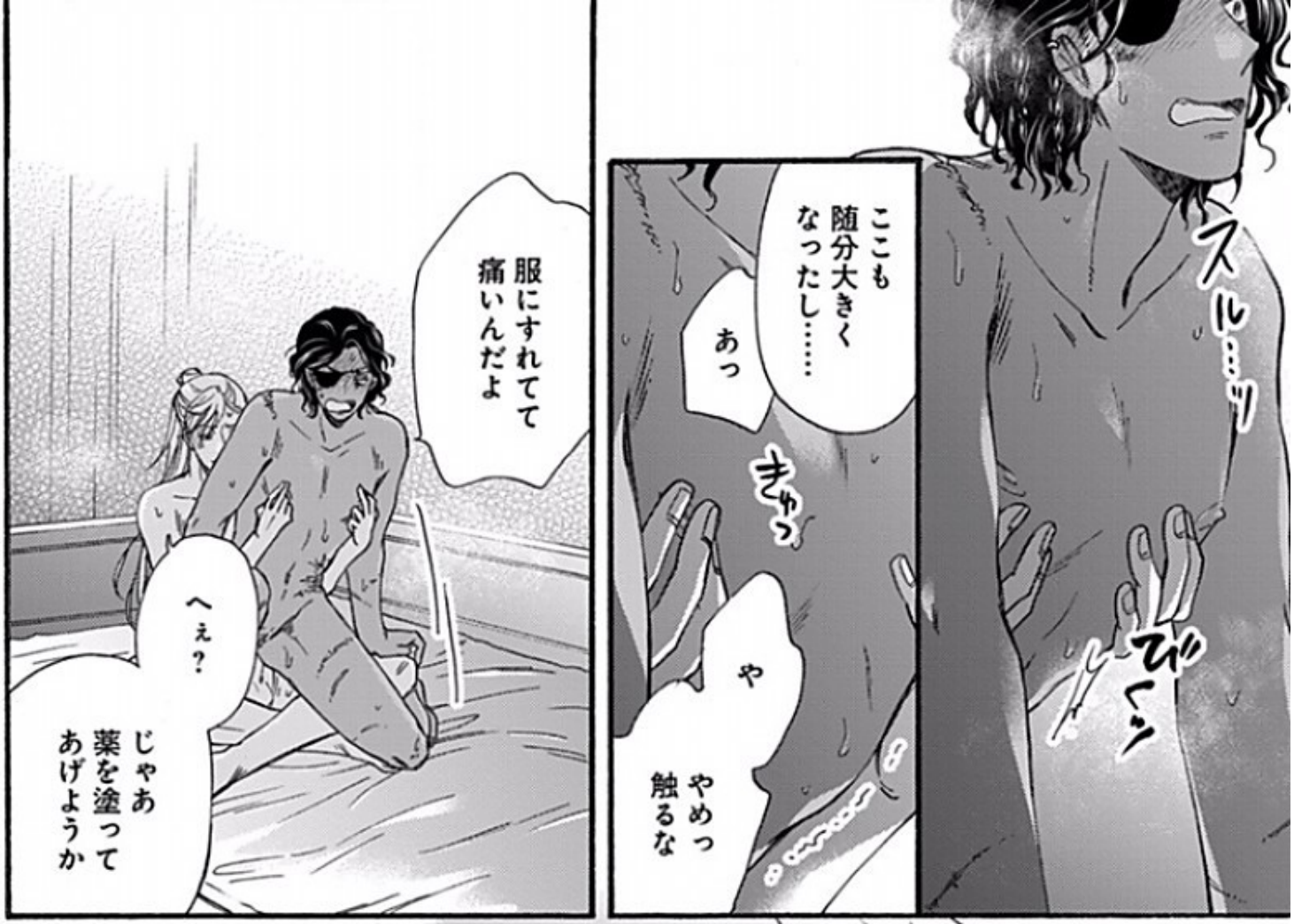
私は覚悟してきた

俺は覚悟してねーよ!!

……待てないか？
んぐ……
んぐぐぐぐぐ
ぐんんんんん
がふっ
いっ
いだっ
…ヤり溜めしてけよ……
がじ…

んぶっ
んん!?
…ありがとう
雀
んふっ
んん
ふっ
くちゃ
ちゅっ
くちゃ
は…
すり
すり
はーーっ…
お陰で安心して行ってこれるよ
はっ
はっ
っ…
…雀……
――忘れないで

私がいつも
君の事を想っている事……
ハァッ
ハッ
ハァッ
ぎしッ
ぎっ
ぎっ
はっ
んんっ
カク
ちゅっ
カク
ちゅぱっ
んんん〜〜〜っ
もおっ右弦も動けよぉっ……
…うんでも……
ぎしっ
ぎっ
ぎしッ
雀が一生懸命腰を振ってるの…もう少し見ていたいな
最初の夜を思えば——
ハッ
ハァッ
感動するよ
ハァッ

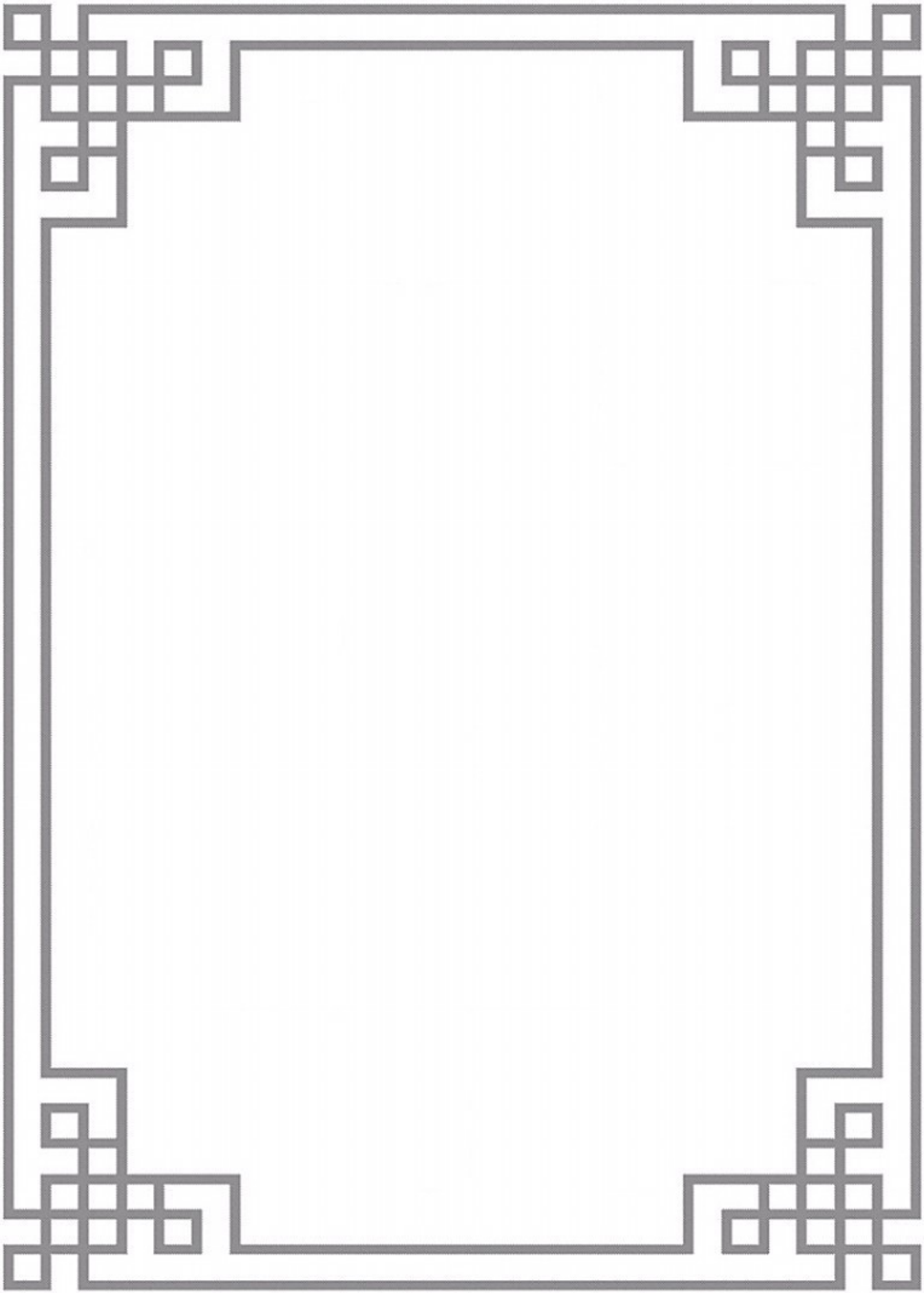

スル…
びくっ
ここも
随分大きく
なったし……
あっ
きゅっ
や
やめっ
触るな
服にすれてて
痛いんだよ
へぇ？
じゃあ
薬を塗って
あげようか

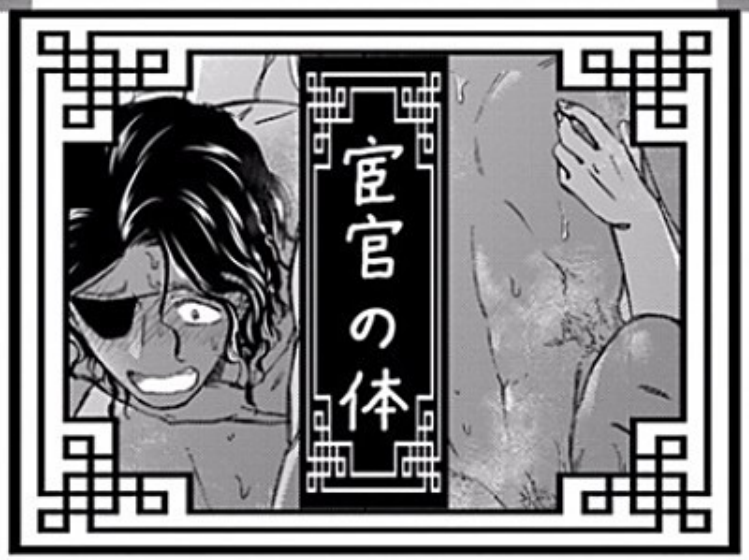
っ……！
びくっ
はっ
びくっ
じょわ…
じょあ…
あ……
あああ…
あ！
ぬーちゅ…！
あぅ
びくっ
びっ
ちゅっ
ちゅ…
やめっ
やめろって…
きゅ
きゅうう…

あーあ……
だから飲みすぎだと言ったのに
いじくりまわすからだろぉ……っ
わ
都に帰ったら雀(ジャン)の為に栓を作らせようかな
う…
あぁっ
やだ
やだやだ抜くなっ……
……っ!!

ぎゅうううう…っ
〜〜〜〜っ
ずっ
あっ
あっ あっ
ずっ
ぱっ
ぱっ
ずちゅっ
ま待って
ぱっっ
ちゅっ
はぅ
うあ…
ぎし
右弦…っ
ハァッ
顔見たいっ
ハァッ
ぎし
顔っ
ハッ
雀……
ぬう…
う…
ちゅっ
んんん……っ
好き…
好きだ
ぎゅうううう
ぎゅう
ぎゅう
愛してる…！

……へへっ
俺も！
いやはや
帝国出身の
宦官とは！
ははは
ほんとに
あれだけ
強いと
安心ですし
帝国への
使者に――
雀殿（ジャン）以上の
適任者は
おりますまい





▼去勢した体は射精できるか

この国の宦官は、概ね完全去勢を要求される。
陰茎と陰嚢(精巣)、両方の切除である。

そして精子は陰嚢(精巣)が作っているが、
精液の三割は前立腺、
残りの七割は精嚢で作られているという。

前立腺は膀胱の真下、精嚢はその奥にあるので、
宦官は去勢されても、
これらは失っていないのである。

では宦官は、精子の含まれていない精液を出せるのか？
というと、これはイエスであり、ノーである。

男性ホルモンのほとんどを作り出す
陰嚢(精巣)が失われているので、
その影響によって精液の生産は大幅に減る。
普通の男性のように射精ができるわけではない。
量はかなり少ないのではないだろうか。
ただ、精液ではあるだろう。

普通よりも漏らしやすくなっているので、
性交時は尿なども出てしまったかもしれない。

……ビジャン？
――親父…？
玉門関で
待っている
はずだった
俺は――

部下さん達に乗せられ

わっしょい わっしょい

どーか帝国が停戦交渉に働きかけてくれるよう下さいっっ

うぐぐぐ…

不服そうな右弦（ウゲン）に見送られながら

使者として帝国軍に赴いた――…

おぉ…お前は死んだと報告されていたから

わしはもうてっきり…

あっはっは

まー俺もしぶといから!!

ちょい ちょい

雀殿（ジャン）要件を…

あぁ！そうだったな…

――停戦？

あまり魅力的な申し出ではないな

我々はあとひと押しで勝利するのだ

しゅん…
そっか…
ゴホン
それにしても
捕虜から
使者になるとは
随分
信頼された
ものだな
あぁ！
今俺
宦官で
皇子サマの恋人
やってっから！
……宦官…!?

そ……
そんな
馬鹿な…
はは…
お前
意味をわかって
言っているのか？
宦官というのは…
ドサッ
きょ…
去勢を
……
はっ
？
お前……
ヒゲが
無い……
ああ
ち●こ切られた後
生えてこなく
なったんだよ
かっこ悪いよな！
……
――卑しい
宦官となってまで
生きていたとは……
恥知らずめ！

こいつは
離れの幕屋(テント)にでも
押し込んでおけ！
ぽつん…
――くそ
なんだよ
卑しいって！
ごろん
ごろん
ちょっとち●こが
切られたくらいで
俺の名誉は
傷つかねーレ!!
ぽつーん…
何も変わらず
立派な軍人
だっつーの!!
かかって
こいや
……
ぐしっ…
…傷ついて
なんか
ねーぞ……
雀(ジャン)…

……

帰ろ…

右弦（ウゲン）の所に…

……

わしは親として
息子の名誉を
守る義務がある

ゴトッ…

……殺して
やってくれ

誰にも
見つからぬよう
始末を……

雀は今頃
上手くやってる
だろうか…

大丈夫ですよ！

——アレは
武人として
死んだ事にして
やりたいのだ

スピー

んが…

スー…

雀！
雀どうして前に出たの……！
殿下！ここはまだ危険です早く逃げましょう
嫌だっ雀が……雀が死んじゃう…!!
ヒュッ
ヒュッ
雀…
しっかりして！
約束したじゃないか……!!
殿下！馬を用意しましたから
嫌だ！ここに残る!!

……っ…
ヒュウ
ぐ…
ヒュウッ
約…束……
はっ
……！
絶対……！
絶対だぞ！雀!!
これ持って会いに行くからっ
パタン

……
ばっ
やばい
すごい
熟睡した……
——メシ…？
ジャリッ
ジャリッ
ジャリッ
ブツ
くそっ
俺の馬鹿……
ざっ
これから
殺す奴に
飯を差し入れる
なんて……
ざっ
ブツ
ざっ
——今日…
今日こそ……

ドキ…
ドキ…
ろ～…
あれ……？
いない…？
せえのっ
ふん!!
ドコッ
おうッ
ははっ
捕まえたぜ
ドコ
あぐ
ドコ
うっ
おらッ
刀出せっ
縄切れよっ
…あ？
…どけっ
あっ
アレだろ
あれっ
お前……
えーとホラ
同じ隊のホラ…
あー名前だけ
出てこない
ドサッ

よし
悪いけど
逃がしてくれ
帰りたいんだよ
さぁ!!
お前…
……
帰るのは…
あの国の
皇子の為…
なのか？
へへっ
そりゃまぁ
恋人だから
へらっ
正気か!?
ビジャンの去勢を
命じたのは
その男だろう!?
お前は……
お前は強い男だ
カッコよくて
憧れてた奴も
沢山いた
明るい未来が
あった！
でも…それを
全部奪われたん
だぞ!!

残りの人生を
男の搾りカス
みたいな連中と
馴れ合って
暮らすのか!?
武人の誇りは
どこへ行った!
ハッ
ハッ
将軍は……
お前を始末
したいらしい
で…でも
もじ
もじ
俺にビジャンを
下げ渡して
くれないか
頼んでやっても
いい……
ほっ…
…?
なんで?
もう自分で
何とかするから
いいわ
帰れば
ドスッ
……ッ

!?
ドッ
ビッ…
…えっ
ちょっ…
ビ…ビッ
ビーッ
お前 それッ
武人の誇りが云々言ってた奴のする事かよ!?

うるせえっ
宦官なんか
もらってやろうって
言ってんのに
よ……!!
スルッ
びくっ
ひっ
あぁ…
ぐりっ
ほんとに
無いんだ
な……?
いっ
やめろ
なぁ……
皇子様のオンナ
やってるって
事はさ……
ぐっ
!!
ここに
挿れられちゃったり
してんのかよ……
ぐにっ
びくっ
ッ……
い…
痛い
やめろ
ぐに
切れる
ぐに
……ちッ
ズッ…
ぐにゃ…

ホッ
くそぉ
はぁっ
手が自由なら
ボコって
やんのに…
はっ
ぬぢゅっ
ひぁあっ!?
アッ!
すげぇな…
隊の奴らに
順番に犯して
もらうか?
ビジャンのケツが
味わえるなんて
皆喜ぶぜ
ぬっ
兄貴がこんなに
淫乱だなんて
知りませんでしたって……
ぬっ
ぢゅくっ
ざっけんな
……っ!
てめぇの
指なんか
気持ち悪い
だけだ
俺はっ
俺は
右弦(ウゲン)だから
――……ッ
ピト…
や……!

嫌だ――……!!
ゴ!!

う……

右弦(ウゲン)…!?

ゴしゅっ

ゴッ殺殺殺殺殺殺殺殺殺…

ゴッ…

ゴッ

ゴッ

ゴッ

あっあの右弦(ウゲン)さん

一応同じ釜のメシ食った奴だしもう許してあげて……

ゴトッ…

雀(ジャン)……

無事で
良かった……!!
へへ……
心配させて
ごめんな…

右弦（ウゲン）の匂い
落ち着く…
……雀（ジャン）が一人捕まったと聞いて……
すごく後悔した
何故宮廷で鎖に繋いでおかなかったのかと……
……
……でも
それは其方が望んでいないことだ
ハラッ

——随分考えた
雀(ジャン)を幸せにしたい……
それなら…
どんなに心配でも
其方を武人として尊重しなければいけないと

あぁ
頼もしい武人で
私の最高の恋人だ
……
俺はまだ武人かな…？
しゅわ…

帰ろう
皆
待ってる
——ああ…
ぐっ
俺が
捕まった事を
知った右弦(ウゲン)は
以前から
調査していた
砦近辺の資源を
ごっそり渡して
さっさと
停戦を結んで
しまったらしい
ほく
ほく
最後にひとつ…
私の使者を
返してほしい
は？
どんな使者
ですかな
おっとぼけ

私の雀(ジャン)を返してほしい
…それで見つけたら見つけたであの男が……
クソッ
もっと痛めつければよかった
まぁまぁ…
だ…誰の事を仰っているのかわかりかねるが
はんっ
……ご存分に探されるがいい……
俺今最高にイイ気分なんだ
許してやろーぜ
……

どうしよう
雀(ジャン)が
可愛い……
んぁ!?
かっ
可愛いって…
そりゃ
右弦(ウゲン)の事だろっ
ばーか
ばーか
胸やけしそうです…
私も…
――よかった…
時々不安になってた
でも違う
右弦(ウゲン)の事
好きだなって
思うことが
増えてたけど
俺ってぐいぐい
押されたら
誰でも好きに
なんのかなとか
思ったりしてた

俺は
右弦(ウゲン)が
右弦(ウゲン)だから
好きに
なったんだ
はた…
？
どうした
いや……
右弦(ウゲン)って…
俺のどこを
好きに
なったんだ？
え？
う～～～ん…
強くて……
優しくて
私を肩書きで
見ないところ…

雀といる時だけ…
私は右弦というただの男になるんだ
「皇子殿下」じゃない
生身の男になれる
雀……
雀といる時だけ…
私は息ができるような気がする

……
？
何か変な事言ったか？
いや…んん……
ん〜〜
なんか似たような事言われたことある気がする…
姫様？だっけ…
えっ…
そ…そんな月並みな言葉だったかな……
あっごめん……おい落ち込むなよ！
勿論右弦（ウゲン）の言葉の方がずっと嬉しいって！
な！

ズ…
——無事
帝国軍と
停戦を結び
帰って参りました
兄上……
ほ…
報告は
全て聞いて
おります
一先(ひとま)ずは
遠征の疲れを
癒して下さい
じ…
後日
ゆっくり
話合い
ましょう
ぎっ
むぃ

少しは信用して相談して下さいよ！
ドンッ
心配するでしょうが!!
にぃゃ
ごめんな
へら
へら
うぉおぉおぉ
笑ってる!!
コレ反省してない顔ですよ！
男の搾りカスみたいな連中…
…
――あの場ですぐ反論してやれば良かった
ぎゅっ

俺の新しい仲間を馬鹿にすんなって――……

やめっ

なんですかっ

ごまかされませんよ!!

雀……

おーい 何か言えよぉ
せっかく着たのに
ふり
ふり
…!!
雀……!
ああああ私の為にこんな服を着てくれるなんて…初めての時は抵抗ばかりだった雀が…!!
……泣いてんの?
いや…うん ちょっと感動して……
そう言われるとはずい…
ス…
雀
私の生涯の伴侶になってほしい

俺の台詞
取りやがって
……
ほんと
もう……
いっつも
いっつも
よぉ……

なぁ右弦…
コレほんとにいいのかぁ…？
いいからいいから
えぇええ……
むぅ…
右弦の…
もふっ

はぐ
はぐっ
あっ
こら
がっつか
ないで…
と〜——…
びくっ
ひゃっ
はぁ…
ぬず…
っ……
ぶるっ…
はっ
んん…
ずる…
雀はここ…
好きだよね？
押してあげれば
……
〜〜〜〜ッ
ず…

ぷあっ

もぉっやめろ
そこばっか！

ケツが
せつなく
なんだろぉっ

むぎゅっ

んぶっ

そ…
そうか……

びくうっ

ひっ

変なとこで
喋んな！

パシッ

痛ッ

う…

はっ

右弦(ウゲン)……

ギシッ

はっ

うん？

ちゅっ

焦らすなって……
そんなつもりはないけど…
ギッ
ギッ
みち…
あっ
あ…！
ぬぐ…
あ
ぬ
ぬ…
お…
おっきい……
大丈夫
ゆっくり…
そう……
ぐぐぐっ
ギッ
やばいなんか
ギッ
もれそぉ…
ふふ
ギッ
は…
いいよ…

はっ…
は…
——雀……
スル…
！
がしっ
……
しょぼん…
あっいや
汚いんだよ
この傷
見たら
萎えるって…
パサッ…

…そんな
わけない
見せてよ
雀(ジャン)の……
大切な
ところ――…

ギッ…
……
むく…
右弦…？
起きたか
誰か湯を！
あー
大丈夫
大丈夫
いてて
コンッ
コ。
コ。…
コ。…
右弦
何か落ち……
……

——これやるよ
砂漠で咲く石の花なんだぜ
これは特に綺麗な形で——……
まぁその…俺の宝物っつーか…
しーん…
だめか…
そりゃあ…
……俺だって姫さんとずっと旅してたいよ
でもそういうわけにもいかないだろ
俺は子どもだし勝手に姫さんに着いて行くって決められない……
うぅ…
……っあー…
な
約束しようぜ
——約束？

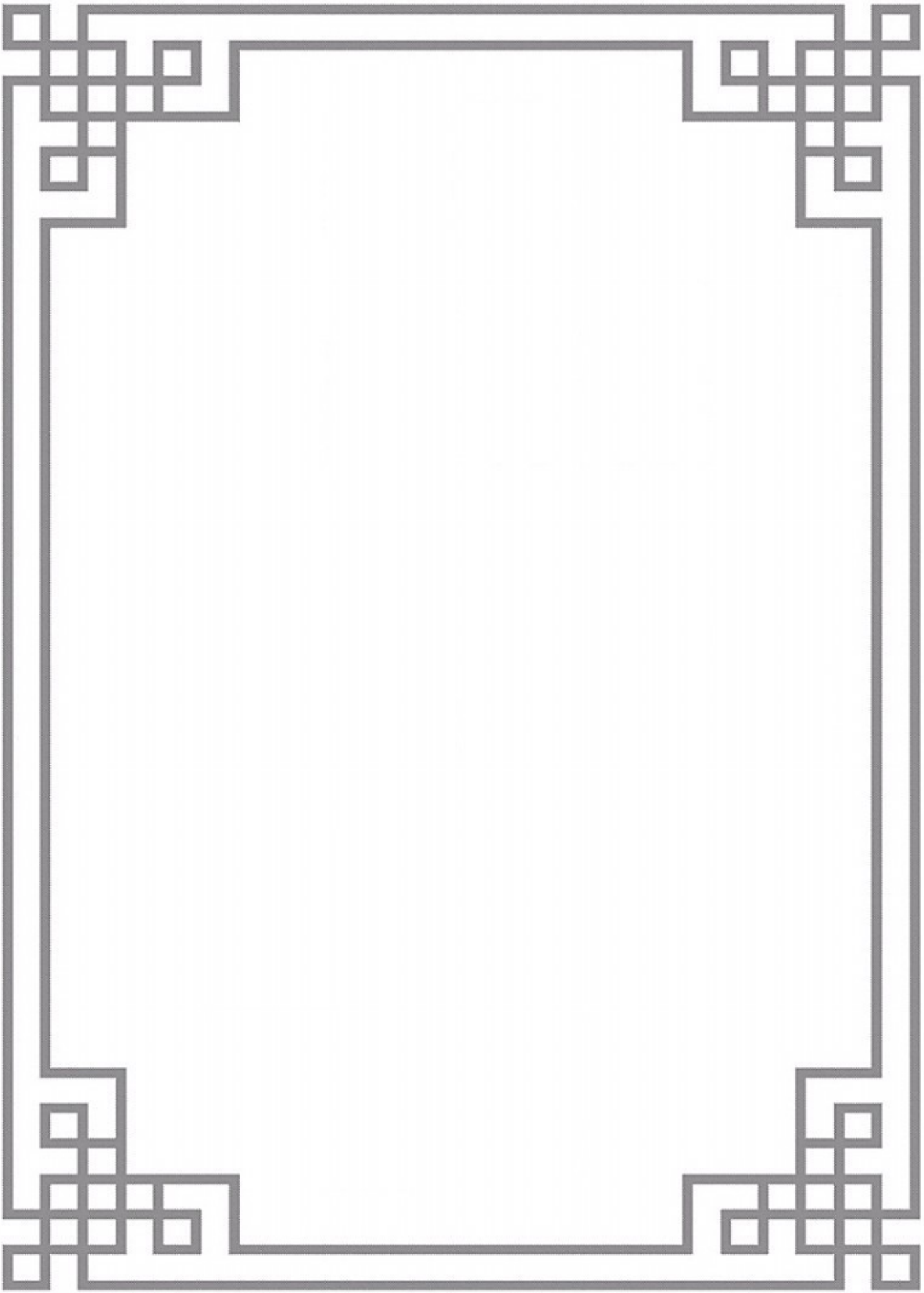
大人になったら
また会おう
――って…
お互い
この花に
誓うんだ
…っ……
約…束……
絶対……！
絶対だぞ！
雀(ジャン)!!
これ持って
会いに行くからっ
――……
…雀(ジャン)……！
ゆそ
ゆそ

俺の姫様……
右弦(ウゲン)だったんだ……
――約束
忘れててごめんな…
ボロッ…

——夢の中で
ほんやりとしていた小さな姫は
俺の中でようやく
右弦（ウゲン）という像を結んだ——…
おい 見ろよ 雀（ジャン）だ
ヒソ
あれが？
へぇ……
ヒソ

故郷で
「不運な男」と
呼ばれた俺は
今この国では
皇子に
見初められた
「幸運な男」と
呼ばれている
ギッ!
ヒソ
ヒソ
まーた
俺の話してんな
……
雀見て
雪だ
今年の冬は
雀がいてくれて
良かった
――寒くない

帝國の宦官／END



んぁ……
……
……？
かんがんついそうろく
宦官追想録
ー西域の姫君ー
ぱす
ぱす
…あ～～～
右弦はもう出仕したのか
くぁあ
なんだよ前より忙しくなってんじゃん
皇太子争いから身を退いた右弦は
後宮から出て王族の所有する邸宅に居を移した

俺の事も
正式な伴侶として
発表してくれて
何も問題なく
幸福な生活
――……
とは……
皇子様
今日は何か
ご用で？
……
は～
じ…
いかない…？

兄上がお前を
生涯の伴侶と
なさったわけが
わからん……
何故……
兄上には
ずっと
想っていた姫が
いらっしゃるのに！
あーそれ
俺だわ
ムフッ
勇敢で
心優しく
美しい姫が！
ずしっ
……
ずしっ
俺か？
大人しく
身をひけっ
お前じゃ
虫除けにも
ならないんだぞ！
キー
キー
随分言われ
ちまったな～
は～…
泰藍(タイラン)太子様は
右弦(ウゲン)殿下の
初恋のお話が
お好きでした
から……
初恋の相手
……
あの…
そういう冗談
地味に
イラつくんで…
やめろ

うーん
そりゃあ俺だってウソみたいな話だと思うけど
右弦(ウゲン)自身が言ったんだ
子供の頃からの想い人は俺だって
雀(ジャン)！
パァッ

たた
来てたのか
皇太子に呼ばれて…
泰藍(タイラン)に？
——まいいや
別にウソでも構いやしない
今愛されてるのは俺だ

それで充分……
ダメだって…
月琴…
教えてくれるって…
教えるよ！
勿論教える
ほらしっかり持って
ここととここを押さえて…
…あれぇ？
何かなこれは
小さくて固い……
ぷつ
右弦(ウゲン)おま…
すけべバカ
おっさん！
な…

やっぱり新婚生活はいいもんだ

幸福でやらしくてねちょねちょな日々は永遠に——

——はァ？

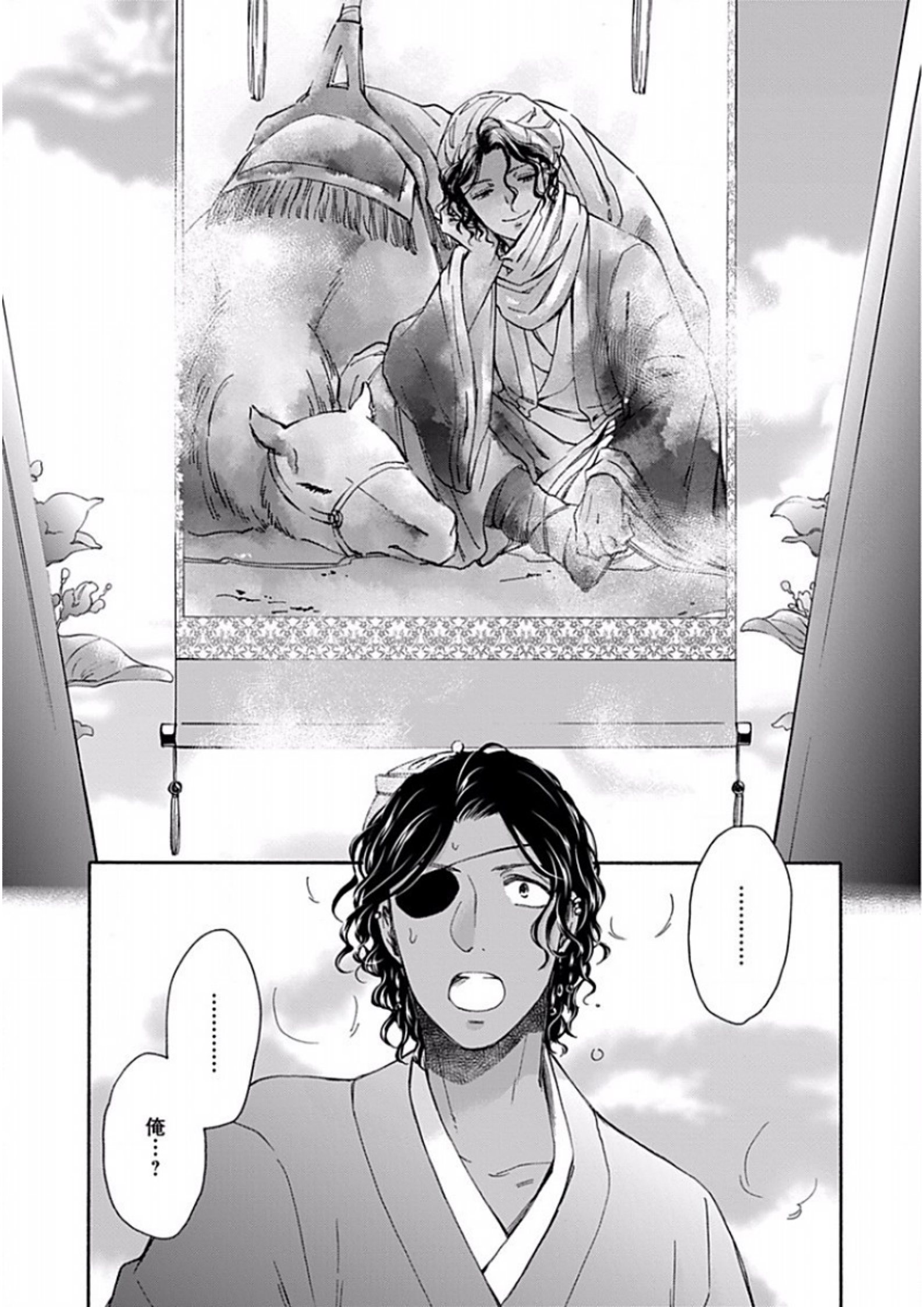
んなわきゃねーだろ
元兵士の俺が隣で寝てんだぞ
ゴソゴソしてたらすぐ起きらぁ
いえ…
くぁ…
くぁぁ…
雀様(ジャン)毎回ぐっすり寝てます…
あ、そう
右弦(ウゲン)殿下はある蔵でしばらくお過ごしになり――……
恍惚としたお顔で出てこられます
あんまりお幸せそうなので私…
誰か居たんですよ!!
よ…
よせよ俺そーゆー話苦手……
違いますよこれは怪談じゃなくって!!
その蔵を覗いたら――
ぼっ

殿下がこのお屋敷にどなたかを…
囲っていらっしゃるのでは……
あいついっつも俺にそういう心配させるもうんざりだ
そんな…お相手の素性などは聞かないと
あっそ
ほっとけよ
え…
ええ!?
うるっせえな
知りたかねーんだよ
右弦(ウゲン)に言っとけ
ヤるなら堂々とヤれってな!

——くそっ
バカ
すけべ
浮気者
くそ
……
心優しく
美しい…
——それは
子供の頃
右弦(ウゲン)には俺が
そう見えてた
って事なのか
それとも

もし
そうなら
その
理想は叶えて
やれそうにない
右弦(ウゲン)の考える
理想の「雀(ジャン)」の
姿なのか……
殿下
雀(ジャン)様が…
俺は……
雀(ジャン)！
雀(ジャン)
何を…

バキ
バキ
バキッ
んだよ
その顔……
そんなに
ここが
開けられたら
困るのか…
よっ!!


……
……
俺…？

じゃ…
雀(ジャン)
それはその……
ちーん…
な…なんか縁起悪そうだし捨てていいか？
死んだ人みたい
ダメ――ッ
それを描いてもらったのはもう二十年ほど前になるか……
ズボー

結局王宮に
戻った私は
勿論歓迎
されなかった
小さな宮と
老いた宦官
だけが与えられ
雀(ジャン)と
別れ別れに
なった後
雀(ジャン)と過ごした時を
なぞるだけが
楽しみの日々が
続いた
——だが
気付いて
しまったのだ

記憶は
薄れていく
という事に
…恐ろしかった…
つづ…
だからこれを
描かせたのだ
よく描けてる
だろう？
ぱっ
その…
気持ち悪いかも
しれないが
これも私の
大切な雀(ジャン)だ
ばっ
殿下 雀(ジャン)様
申し訳
ありません
私が誤解した
ばかりに…！
う……
もご
べ別に…
もご
ちょっと
気になった
だけだし……

え…？
ちょっと
……？
……
惨憺たる有様…
雀(ジャン)
……疑って
悪かった…
あ～～～ぁ
暇だから
変な事
考えちまう
はずい…
右弦(ウゲン)の
護衛とか
やろっかな
えっ～～～
家にいてほしい…
殿下お話は
あちらで
ゆっくり……
ああ
そうだな
行こう
……

皇太子殿下
よくいらっしゃいました
兄上！
いつものように
泰藍（タイラン）と
呼んで下さい
泰藍（タイラン）
よく来た
お招き頂き
嬉しいです！
お？
び～
い～

兄上
また姫の話を
して下さい
砂漠の
ところから！
うーん……
実はあれは
姫では
ないのだ
強く
美しく
時々とっても
焼きもち
焼きの…
私の
初恋の人の
話だよ
END

初めまして、こんにちは。日野晶と申します。
この度は「帝國の宦官」をお手に取って頂き、本当に有難うございます！

前作「皇帝と宦官」を描き始めた時は、
こうして宦官漫画をまた描けるとは、思ってもみないことでした。
読んで下さる方々のお陰です。
有難うございます。
今作も、少しでも楽しんで頂けれていれば、嬉しいです^^

二冊分の宦官漫画を描かせて頂きましたが、
宦官のどういう所に萌えているの？と
改めて聞かれると、どこだろう？と未だ悩んでしまいます。
(「世界観」とか「社会制度」とかぼんやりした答えになりがち)

奴隷同然の扱いなのにいつの間にか実権を握っていたりとか、
賄賂を持ってこさせる為にどれだけ脳みそ使ってるんだ！？とか、
文盲の上級宦官が読み書きの達者な下級宦官に小説を朗読させ、
目をキラキラさせながら「今のとこもう一回！もう一回読め！」とねだったり…
資料を読んでいると生き生きとした彼らの姿が目に浮かびます。

結構悪いこともしてたりするんですが、
なんだか、悲哀と滑稽さ、そしてどこか、愛おしさを感じるのです。
絶対実物可愛くないと思うんですが、
本当にどうしてなのか、とても可愛い…と感じてしまうんです。

私の「宦官可愛い」と「宦官は歴史ロマン」という
誤った情熱が、読んでくれた方に届けられていれば、嬉しいです。

ここまで読んでくださって有難うございます！
これからも、面白い漫画が描けるよう精進して参ります。
また是非、お目にかかれますように。

日野晶

参考文献
(※この作品は資料に忠実には描いておりません。
資料を参考に妄想を膨らませて描いたファンタジー宦官漫画です。)

宦官一側近政治の構造（三田村泰助　著/中央公論新社/2012年刊）
宦官—中国四千年を操った異形の集団（顧蓉 他著/徳間書店/2015年刊）
最後の宦官秘聞—ラストエンペラー溥儀に仕えて（賈英華　他著/日本放送出版協会/2002年刊）
宦官物語—男を失った男たち（寺尾善雄　著/河出書房新社/1989年刊）
三国志武将画伝（瀬戸龍哉　他著/小学館/1996年刊）
ビジュアル博物館 第55巻 中国（アーサー コットレル　他著/同朋舎出版/1995年刊）
ビジュアル博物館 第51巻 砂漠（ミランダ マッキュイティ　他著/同朋舎出版/1995年刊）

✦Thanks✦
読者様、担当様、関係者の皆様、
アシスタント エス様、Y様、リリく様、ゆかこ様、みなぴん様、
資料写真を下さった読者様、本当に有り難うございます！

宦官シリーズ 大ヒット配信中!!

話題沸騰・嫉妬と欲望が渦巻く淫靡な宮廷ドラマ、商業未発表作を電子配信!

偽りの宦官

【皇帝と宦官シリーズ・番外編1・】

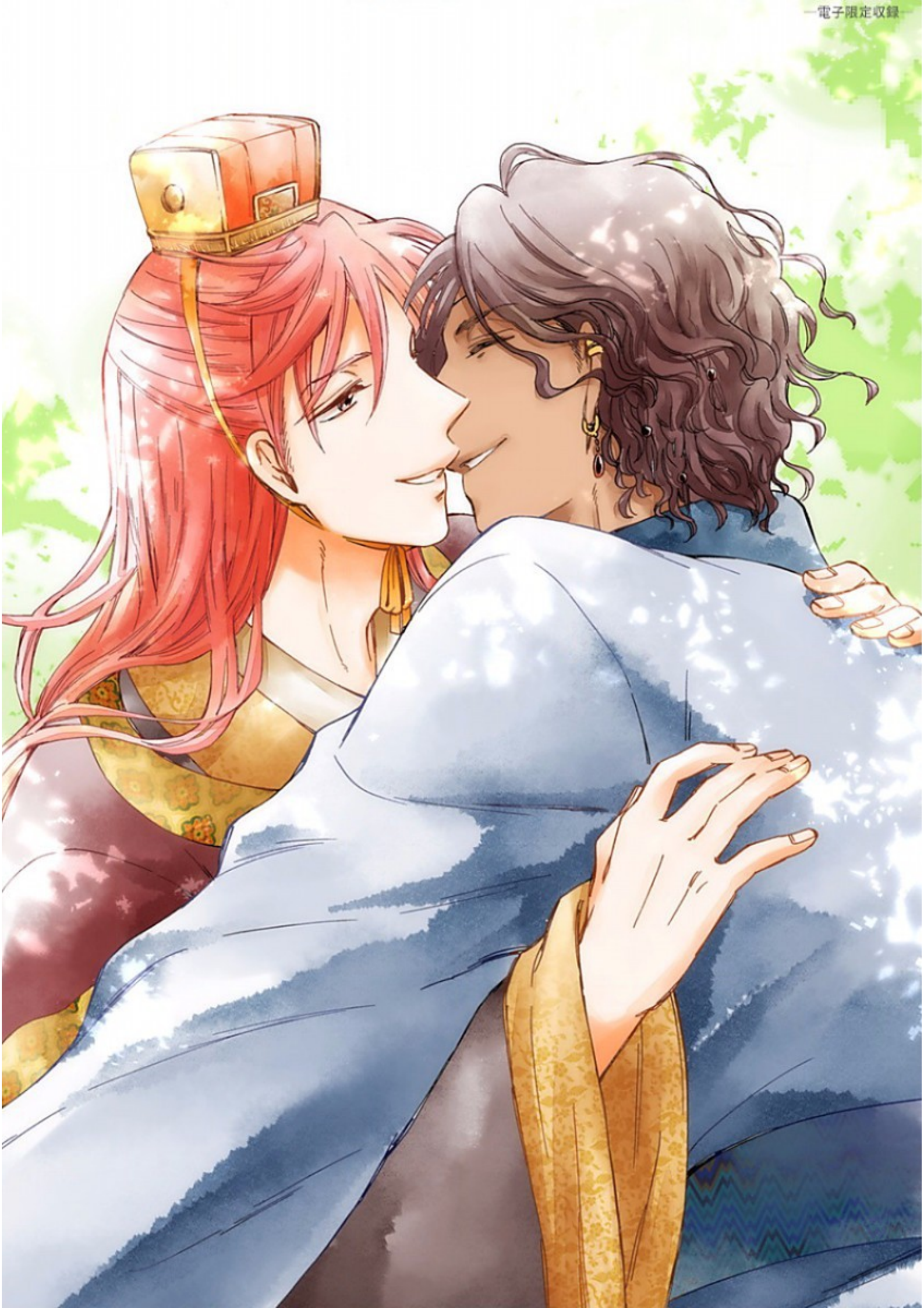
◀「皇帝と宦官」主人公
カイエンも登場♥

不本意ながら去勢を施され宦官になったシリョウ。残る希望は美しく舞って陛下や貴妃様方の目に留まり愛人にしてもらうこと。しかし実際のところは、腹の底が読めない上級宦官・ヤンネイの機嫌を取り体でご奉仕する日々……。ある日眠るヤンネイを見つめていると、目を疑う光景を目の当たりにしてしまい……!?

（Android、ios対応）で今すぐ読めます!

リブレブックスプラス

その他配信サイトはリブレウェブサイトでご確認ください。



●カバーイラスト：日野 晶 ●カバーデザイン：

BBC DELUXE
ビーボーイコミックス デラックス

〈初出〉
帝國の宦官　（eビーボーイコミックス　2016年7月～11月、20
宦官追想録 -西域の姫君-　描き下ろし
あとがき　描き下ろし

【電子限定かきおろし付】

帝國の宦官（かんがん）

2017年8月10日　電子第１版発行

著者　日野　晶
© Akira Hino 2017

発行者　太田歳子

発行所　株式会社リブレ

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂6-46
ローベル神楽坂ビル
電話　営業03(3235)7405

本作品は紙版刊行物を電子書籍化したもの（デジタル版）であり、掲載されている情報は紙版出版時点のものです。[紙版発行：2017年8月10日]
※電子限定描き下ろしページを追加収録しました。

この作品はフィクションです。実在の人物・団体・事件等とは一切関係ありません。
本書の一部、あるいは全部を無断で複製複写（コピー、スキャン、デジタル化等）、転載、上演、放送することは法律で特に規定されている場合を除き、著作権者・出版社の権利の侵害となるため、禁止します。本書を代行業者等の第三者に依頼してスキャンやデジタル化することは、たとえ個人や家庭内で利用する場合であっても一切認められておりません。